全日本女子、アジア予選代表決まる

日本協会は1月25日、第6回世界女子選手権アジア予選（Aゾーン）に出場する役員2、選手15名を別掲のように発表した。

同予選は、2月9日から19日まで、韓国・大邱市の慶北体育館に日本、韓国、台湾の3ケ国が集り、2回総当り戦によって行なわれるが、代表チームは、さきに発表（＝本誌125号参照）された「昭和49年度女子ナショナルチーム」のなかからコーチングスタッフが推せんした。ハイティーン4人を含み、若々しい印象である。

監督は昨年6月、すでに井薫氏（立石電機、中大出）に決まっていたが、コーチには3人のコーチングスタッフのなかから、池田鉄哉氏（日本ビクター、芝浦工大出）が指名を受けた。代表チームは、2月3日から東京で最終合宿（本年度第5次）を行ない。2月8日、羽田国際空港を発ちソウル経由で大邱入りする予定。

Bゾーン・の勝者イスラエル（インドに不戦勝）とアジア代表権をかけて対戦する場合も、井監督は、「手直しはしないつもり」といっており、韓国遠征の15名そのままか、このうちの一部でチーム編成されるものとみられる。

アジア代表権を獲得した場合の本大会出場メンバーは、改めて選こうされる。なお、渡辺久子、額賀美恵子の両選手は昨年12月ナショナルプレイヤーとして追加承認されていたもの。

なお、団長は1月26日の全国理事会で協議される。

〔関連記事4頁〕

第6回世界女子選手権アジア予選代表団

役職	氏名	年齢	所属
監督	井　薫	(36)	日本協会技術委
コーチ	池田　鉄哉	(33)	日本協会技術委
GK	和田　祥子	(22)	立石電機
	渡辺　久子	(22)	日本ビクター
	久保　徳子	(21)	田村紡
FP	島田　夏枝	(24)	立石電機
	古佐原ひろ子	(23)	東京重機
	蔵田　照美	(23)	立石電機
	額賀　美恵子	(22)	日本ビクター
	菊地　春美	(21)	東京重機
	山下　恵美子	(21)	立石電機
	有賀　とも子	(21)	東北ムネカタ
	松下　仁美	(20)	田村紡
	加藤　美起子	(19)	日本ビクター
	穂積　美穂子	(19)	日本ビクター
	河田　栄子	(19)	田村紡
	紀野　奈々美	(18)	立石電機

モントリオールへの道

モントリオールへの嚆矢ともいうべき世界女子選手権アジア予選（Aゾーン）が近づいた。

このところ、男子のカゲにまわっていた女子にとって、モントリオールでの採用は、内外とも回生の妙薬として受けとめており今冬の本大会（キエフ市）の活況が今から予想される。

日本は、世界手選権休止などいちぢ本場との交流が途絶えたためかなりのハンデを背負ったが、昭和46、48年の世界手選権参加で、徐々に力を盛り返し、IHF（国際ハンドボール連盟）の専門家筋には「東欧勢へ食いこむのは、いまや日本がいちばん期待できる存在」という評価さえあるようだ。

男女両方の世界選手権団長をつとめた日本協会・田村正衛会長も「男子より上位入賞のチャンスは女子の方が早そう」とみており、それだけに、最近の女子ナショナルチームの周辺はなかなか活気に満ちたものがある。

ところで、こうした盛りあがりとは裏はらに、国内第一線層の拡充が、もうひとつ伸びを欠いているのは残念でもあり、不安でもある。

例えば、トップゾーンを支える実業団チームの監督たちは、新人の獲得が思うにまかせないことを嘆いている。

特に、これぞと思う高校選手が実業団の門を積極的、意欲的にたたこうとしない傾向はせっかくの上昇ムードを、先細りにさせてしまいそうだ。

もちろん、「職業選択の自由」は守らなければならないが、実業団を敬遠するような傾向は、なんとか歯止めが必要ではないか。

高校生、学生側に云わせると実業団は練習々々に追われ、自分の時間が少なそうだし、練習も厳しすぎる、といかにも〝現代気質〟なのだが、筆者にいわせれば、どうもこれは被害妄想。

現状の一面をついてはいるが、曲解されすぎていると思う。

実業団側も当の選手を含め、その周囲に自社や自チームの環境を充分に説明していないのではないか。

せっかく、勇躍のチャンスを目前にしているのだ。上を向いて歩くのもよいが、地盤をしっかり固めなくてはなにもなるまい。

アジア予選が終ったら、いちどじっくり女子の頂点について関係者は額を寄せ合うべきだろう。

メダルだ、入賞だなどというものが、国内体制のととのわぬところへ輝やいた例はないのである。（Z）

「ハンドボール」50年2月号（第127号）目次

【表紙写真】全日本総合・男子優勝をかけた大同×三景戦。大同は藤中（中央）を中心に迫力に満ちたプレーをみせた（49年12月15日、東京体育館）。撮影・山田真市

激動の斯界に新しい流れ期待

～注目の代議員出揃う～
2月23日、東京で初会議開く

日本協会

日本協会は50年1月1日を期して、代議員制度を打ち出す新規約（＝本誌125号既報）を施行、2月23日午前10時から東京・岸記念体育会館で初の代議員会（定期）を開く。

世界選手権(女)アジア予選のからみや、現執行部の任期が残されていることなどがあって、新体制へ全面的に移行されるのは3月中旬とみられるが、激動を予想させる今後の日本ハンドボール界に代議員会の果たす役割はまことに大きなものがある。（編集部）

中央—地方のパイプ役に

□……初の代議員制度は、約1年の検討・準備期間があったにもかかわらず、いざ施行となると組織（各都道府県協会）や、加盟団体（各全国連盟）は、いっそう慎重に対しょしたようで、代議員選任のため、この2ケ月間に3回の総会を開いた県協会もあり、期限の旧年内に決まらなかったところも少なくない。

それだけに、出揃った代議員の顔ぶれは「日本協会の意思決定者」「中央—地方のパイプ役」たるにふさわしく、評議員時代の「名」と「顔」は申し分ないが、「実」が伴わないと云われてきたマイナスを充分改めることができそうである。

立ち場変える日本協会ＯＢ

□……届出前から、ある程度予想できたことだが、いわゆる「日本協会ＯＢ」がかなり打って出てきているのは興味深い。

特に、箱崎(岩手)、若崎（神奈川)、岡村(東京)、渡辺五（新潟)、角(富山)、丸口（広島)、早坂(自衛隊連)、山田計（教職員連）の各氏は、中央執行部の主力として豊富なキャリアがあり、日本協会そのものを熟知しているかただ。

執行サイドから、議決機関へ立ち場を変えて、どのような指針を示し、アドバイスが出るか、焦点の一つといえよう。

□……31才の福井（京都）氏を最年少に、30代から40代前半の代議員が多いのも、若い協会らしく、期待がもてる。

いずれも地方協会の理事長クラスで、旧来の日本協会の体質を改める担い手とも云えよう。

これらの人は、地方球界の第一線にあり、地方の欲求を日本協会の施政にどう盛りこむか情熱を燃やすことになる。

これは、評議員時代には、あまり顧みられなかった面だし、普及活動の上では、新しい路線を見出すことになりはしないだろうか。

注目の前評議員各氏

□……鹿内(青森)、宮川(茨城)、若崎(神奈川)、伊藤(福井)、野原(大阪)、常松(兵庫)、堀内(奈良)、永井(岡山)、古賀(佐賀)、田中丸(長崎)、小袋(高体連)、山田（教職員連）氏ら評議員から引きつづき、代議員をつとめられるかたが12名も数えられるのは注目される。

当然のことながら、評議員会への出席率が高かったかたばかり。

痛烈な日本協会批判者であり、この上なき日本協会理解者であったある消息通は「軌道にのるまで代議員会は、この人たちを中心にして運行すべきではないか。

それでないと地方代表色が濃すぎてスケールが小さくなり、ミクロな問題ばかりつつきあうようになる」と云っている。

全国理事会の正常化へ

□……さて、評議員会が代議員会に代わり、どこがどう変るだろうか。

少くとも、委任状によって会が成立し、重要案件が無人とも云える会議場で、次々に〝承認〟されていく風景はなくなるだろう。

これまでの日本協会の施政は、その意味で、アブノーマルだったといえる。

全国理事会が、実質的には、日本協会の意思決定をくだしていたに等しく、そのため、常務理事会だけが、執行機関のように映った。

代議員会が、本来の権限・責任を果たせば、全国理事会が名実ともに、執行機関として確立されようし、常務理事会の〝立ち場〟もおのずと定まって来よう。

代議員会の決めた路線にしたがい、理事会—常務理事会が、実施面の色づけ、肉づけをして行く。ようやく、日本協会は、正道に戻るきっかけをつかんだ、と云ってよいだろう。

評価される執行部の「自信」

□……代議員制採用にあたって、評議員会内の〝反省〟があったこととともに、理事会が、積極的にそれを望んだ、というのも実は日本協会の成長を物語るできごとである。

執行サイドにとってこれまでのような評議員会は、言葉を悪くすれば「都合のよい存在」だった。

つまり、執行部の示す案件を問い返すだけの〝力〟がなく、ほとんど無修正でパス（承認）されてきたのだ。

常務理事会案を、全国理事会で煮つめなおせば、それで「決まったも同然」。

なんのことはない執行機関が議決機関も兼ねていたようなものである。

古くから日本協会を知るあるス

代議員会の権限

・代議員会は、本会の最高議決機関として本会運営の基本方針を定める。

・代議員会は本会の会長、副会長および監事を選出する。

・代議員会は、この規約に別に定めるもののほか、次に掲げる事項を議決する。

(1)規約の改正
(2)予算
(3)事業計画および資金計画
(4)財団法人日本体育協会への派遣役員の承認
(5)決算の承認
(6)事業報告の承認
(7)その他理事会において代議員会に付議することを相当と認めた事項

ポーツライターは「執行部が、むしろその傾向を〝利用〞していた時代さえある」とまでいう。

□……すべてにガラス張りをモットーとする田村（正衛会長）―荒川体制はここ数年、国内での地固めにつとめ、評議員会―理事会の正常化を企ったのだが、評議員会は何回開いても〝ペーパー（委任状）会議〞を脱せずにいた。

　これまで同よう「都合のよい存在」にしておくことは、容易だったのだが、田村会長は「地方の要望を日本協会施政に反映させること」を強く望み、理事陣もその意向に異議はなく、ここに代議員制の採用が決まったのである。

　執行部の公明・自信・誠実さが新しい流れを呼ぼうとしていることは、高く評価されてよいと思う。

活潑な論議展開へ

□……代議員会は、執行部とおそらく活潑な論戦を展開することだろう。

　荒川理事長は「それでこそ中央の考えが地方に侵透する」といっているし、一方、ある代議員は「地方の望んでいることを、中央の施策の根幹に反映させられる」という。両者とも、よい意味での、手ぐすねを引いている感じだ。

　日本スポーツ界のすべてに詳しい保坂周助副会長は「議決機関と執行機関が、白熱してこそ発展がある。ある競技団体では、代議員会が理事会決議を差し戻したり、くつがえしたりすることもある。

　理事よりはるかに斯界に精通した代議員もいる。日本協会も是非そうなって欲しい」と、代議員制に期待を寄せている。

□……ところで代議員会が、当面している問題で早急に解決しなければならないのは「国際情勢への対応」と「財政問題」である。

　この2点は、執行部で論議を集約しても、最終的には議決機関に決裁をゆだねるもので、その頼るべき会議が、つねに閑散とした出席者のために、右往左往するばかりであった。

　2月22日の初会合で、〝結論〞〝方針〞を導き出せるかはともかく、なんらかの方向が打ち出せるものとみたい。

各分野に若手登用か

□……こうして滑り出した代議員制度だが、いくつかの課題をかかえているのも事実だ。

　特に、代議員会出席者への旅費支払いについて、日本協会・神田清財務部長は「見通しがたたない」と云っており、代議員選出母体と今後どう話し合うか、一部には「代議員会の成否を握るカギ」という声さえあるだけに、成りゆきが注目される。

　また、将来はともかく現時点では執行部側の〝現状把握度〞がはるかに上廻っているというみかたが強く、そのためなんらかの影響が生じることも考えられる。

　なお、代議員は、日本協会役員（注・会長、副会長、顧問、参与理事長、常務理事、理事、専門委員、海外駐在代表）との兼職を禁じられている。各分野で新人、若手の積極的な登用が企られることになり専門委員会などは、かなり新陳代謝が予想される。思わぬ副産物と云える。

日本協会初代代議員

・（　）内は県協会役職（49年12月現在）
・敬称略

県	氏名	役職
北海道	川上　幸三	（事務局担当理事）
青森	鹿内　一胤	（会　長）
岩手	箱崎　敬吉	（副会長）
秋田	由利　弘	（理事長）
宮城	山路　康男	（常務理事）
山形	会田　恒雄	（理事長）
福島	関川　正道	（理事長）
茨城	宮川　健一郎	（会　長）
栃木	桑名　照雄	（事務局長）
群馬	高橋　潔	（理事長）
埼玉	遠藤　健次	（理事長）
千葉	浮谷　貞雄	（副会長）
東京	岡村　昭二	（理　事）
神奈川	若崎　重富	（理事長）
山梨	古屋　正	（副会長）
新潟	渡辺五郎兵衛	（理事長）
長野	柳沢　民弥	（理事長）
富山	角　勉	（理事長）
石川	若山　博	（理事長）
福井	伊藤　仁和	（会　長）
静岡	久保田　龍治	（常務理事）
愛知	伊藤　和夫	（常任理事）
岐阜	岡田　重博	（理事長）
三重	中根　武彦	（理事長）
滋賀	尾本　和男	（副会長）
京都	福井　喜昭	（副理事長）
大阪	野原　成之亮	（会　長）
兵庫	常松　喬	（会　長）
和歌山	中井　泰彦	（理事長）
奈良	堀内　俊夫	（会　長）
鳥取	高木　敏行	（理事長）
島根	高尾　茂	（理事長）
岡山	永井　恒三郎	（会　長）
広島	丸口　哲美	（理事長）
山口	青木　操	（副理事長）
香川	辻　要	（副理事長）
徳島	前田　誠之助	（理事長）
愛媛	3月末に決定	
高知	川崎　秀雄	（理事長）
福岡	岡井　抽己義	（理事長）
佐賀	古賀　甚一郎	（会　長）
長崎	田中丸善一郎	（会　長）
熊本	島田　秀四	（副理事長）
大分	福田　稔	（理事長）
宮崎	富永　篤美	（理事長）
鹿児島	堀之口　貞男	（理事長）
沖縄	嘉陽　宗陰	（副会長）
学連	藤松　博	（会長代行）
高体連	小袋　是郎	（副部長）
実連	岡部　正文	（副理事長）
教職員連	山田　計	（会　長）
自衛隊連	早坂　勢三	（副理事長）

〝世界〟目指しまずアジア諸国と

世界女子予選 9日から韓国(大邱)で開幕

第6回世界女子選手権（12月、キエフ）のアジア予選Aゾーンは2月9日から19日まで、韓国大邱市・慶北体育館に、日本、韓国、台湾の3ケ国が参加、2回総当り戦によって行われる。

この勝者と、Bゾーンでインドに不戦勝したイスラエルが、アジア代表権をかけ、改めて対戦（2回戦制）するが、すでに、本誌1頁所報のとおり、日本代表チームはその陣容も決まり、モントリオールオリンピックにつながる本大会へ意欲に満ちた表情を浮かべている。

しかし、自国に初めて本格的な国際大会を迎える韓国や、国際舞台初登場の台湾も、かんたんに引きさがるとも思えない。

日本チームは昨秋来、すでに3回の合宿をつんでおり、2月上旬仕上げのあと8日、羽田国際空港から韓国へ向かうが、日本有利の前評判を聞きながらこの予選を展望してみた。

アジア予選Aゾーン日程

・2月9日	15時	韓国——台湾①
11日		日本——台湾①
13日		日本——韓国①
15日		韓国——台湾②
17日		日本——台湾②
19日		日本——韓国②

（いずれも韓国・大邱市慶北体育館）

アジア代表決定戦

・時日未定	A勝者——イスラエル①
	A勝者——イスラエル②

日本の有利動かず

日本代表は思い切った若返りをみせた。（平均年令21才。48年の世界選手権代表22・7才）

3カ月前、49年度ナショナルが発表された時点で、新進の登用は話題となっていたが、さらにこのあと前世界選手権代表の鳥居（ブラザー工業＝退社）と、坂本（日体大4年）の辞退があり、井監督らコーチングスタッフは、苦心のリストアップとなった。

日本協会も、国際キャリアに乏しい新・全日本を力づけるため、特に12月の月例常務理事会で、海外遠征では、男女を通じ史上初めて、フルエントリー（16名以内）させることを決めたほどだ。

場合によってはこの予選の勝者が来年のモントリオールオリンピック3大陸代表決定戦のアジア代表権を得るとの情報もあり、一試合一試合のもつ意味の大きさもこれまでと比べものにならない。

FPの中心は、やはり島田、古佐原、蔵田、山下の前世界選手権代表組だが、菊地がすっかり安定してきているのは心強い。

GKは、ヨーロッパ転戦で自信をつけた和田が軸。渡辺、久保も堅実さには定評があり、大きな崩れはみせまい。

若手、新進の健斗を期待

これらの選手たちは、地力も充分、どのような場でも相応の力を期待していい。

問題は遠征先での4試合という日程のため、若手たちがどうつないで主力選手に余裕を与えられるかだろう。

額賀、加藤、有賀、松下らは個性的な技倆をもち、国内では第一線勢とそん色はない。重圧のかかる国際試合で、その力を存分に発揮するようなら、チームとしての厚味もグンと増す。

井、池田両氏は、若さからくるもろさは目をつぶり、その〝爆発〟を望んでいるようだ。将来への布石のためにも、これは貴重であろう。

穂積、河田、紀野のフレッシュトリオ。揃って社会人1年目に〝全日本〟の座を射止めた。

その素質、その期待度が判ろうというものだ。

井監督は「チャンスがあればどしどし起用する」と云っており、この遠征の一つの焦点ともいえる

個人技に秀れた韓国

さて、韓国、台湾の実力はどうなのだろう。

韓国は、ソウルの有力実業団・白花醸造（昭46、47年来日）が解散してから、女子トップ層の実力が落ち、しかもナショナルチームを編成するのは、今回が初めて。キャリアでは掛け値なしで日本が一歩リードしている。

しかし、権美子をリーダーに日本にもなじみ深い左腕・李純玩（梨花女大、171㎝）をはじめ、朴妙順（167㎝）、張恵玉（165㎝）ら大型アタッカーの個人技は国際級といえ、また、高校界の鳳永女商、聖貞高などに逸材が豊富と伝えられるだけに、軽視は禁物。その意味で、昨夏の日韓高校交流が流れたのはマイナスである。

インドが棄権

Bゾーン代表はイスラエル

IHF（国際ハンドボール連盟）と、渡辺和美IHF理事は1月15日、インドが「世界女子選手権アジア予選Bゾーン、対イスラエル戦を棄権する」と伝えてきた、と発表した。

これによって、イスラエルの不戦勝が決まり、アジア代表権をかけて、Aゾーンの勝者と、近く対戦（2試合）することになった。

インドは2月1日テルアビブ、2月4〜6日に自国でイスラエルと対戦する予定だった。

棄権の理由は「インド国内に40m×20mの国際規格をもつ屋内コートがないため」である。

また、毎回驚ろかされる地元の熱狂的な声援も、今回はタイトルマッチだけに、いっそう激しくなるものと覚悟しなければならず、日本が、自分のペースを見失うようだと、李太姫、金賢淑らGK陣も手固いだけに苦しくなってくる。なお、李純玩は今回参加しないという有力筋からの情報もある。

「台中毛織」中心か台湾

台湾については、ほとんど資料がない。

低年層への普及度は、今や日、

韓両国をしのぐとさえいわれているが、最上位の実力は未だしとみてよいのではないか。
台湾協会の「手球年刊」によれば昨年5月の第5回台湾学生選手権で女子優勝を飾ったのは台平市立体大、同6月の第2回全台湾選手権の女子は実業団の台中毛織(Taichung Textle)の2連覇。全台湾の2～4位は高校チームだ
台中毛織が、最強の実力を誇っているとは確実のようで、そうなると、かなりまとまった練習をつんでいる、と予想される。
このチームの主力は中学出の若い選手ではないか、という情報もあり、年少者対策の最初のみのりとすれば、技術的には一応の水準と考えておかねばなるまい。
しかし、韓国、台湾とも、卒直にいって男子の強化に比べ、女子のそれは、現時点ではあまり力をいれていないと云われるし日程面でも、まず韓国×台湾戦が行われ日本は充分、両国を観察できる利点がある。
日本の主力がヨーロッパスタイルのレフェリングになれているのも心強い。
場内の雰囲気に呑まれないかぎり、日本の全勝は動かないだろう

無気味なイスラエル

つづく、イスラエルとの対戦。相手の実力が未知数なだけにインド戦が流れて、偵察の機会を失ったのは痛い。
イスラエル女子は、これまでいちども公式的な場に姿をみせず、もちろん日本との交流もなかった
しかし、ヨーロッパ各国との交流が容易だし、ヨーロッパカップには、代表（単独）を送りつづけている。
今シーズンは、ハポエル・ラアマナが強豪ＩＥＦＳ・ブカレスト（ルーマニア）と1回戦で対戦している。（28－4、21－5でブカレストの連勝）。
男子の実力からすれば、そうこわいことはない、という観測もあるし、それはじゅうぶん考えられることとなのだが、ここへきて、日本に、対ヨーロッパ経験者が5人しかいないという不安が頭をもちあげてくる。
アジア地域所属とはいえ、イスラエルのハンドボールは、完全にヨーロッパ・スタイルであり、韓国、台湾戦直後の日本が、簡単に"切り替え"ができるかどうかも一つのカギ。開催地がどこになるかも勝敗の行方に影響しよう。

勢いつけて本大会へ

専門家筋の評価も高まりつつあるという日本が、どのような状態であれ、地域予選段階で、てこずっているようでは拙い。
過信は慎しむべきだが、世界10位の実力に自信をもって、アジア予選を突き進んで欲しいものだ。
ここで勢いをつければ、10カ月後の本大会でも大きな飛躍が望めようし、モントリオールへの道も広く大きく開かれるのである。
Ａゾーンのレフェリーはエドガー・レイチェル、ビルフライト・テテンの西ドイツペアがＩＨＦ（国際ハンドボール連盟）から推せんされた。ウイットネス（立ち会い人）は渡辺和美氏（ＩＨＦ理事、日本協会副会長）になる予定使用球は韓国製の「スカイ」。

イスラエル戦も韓国で

荒川理事長、ＩＨＦへ要望

【速報】日本協会・荒川清美理事長は1月25日の月例常務理事会席上「世界女子選手権アジア代表決定戦・Ａゾーン勝者対イスラエルの2試合を、Ａゾーン予選会に引きつづき韓国で開くよう、渡辺和美ＩＨＦ理事を通じＩＨＦへ要請した」ことを明きらかにした。
ＩＨＦは、同試合を当該国間のホームアンド・アウエイで、今春4月末までに行うよう指示しているもの。
Ａゾーンで日本が勝ち荒川理事長の提案が通らなかった場合、日本対イスラエル戦は治安上の問題で大きな暗礁にのりあげる。

女子アジア予選代表の横顔

◇**監督・井　薫**　立石電機監督、中大出、36才、昭46第4回世界女子選手権コーチ、昭48第5回世界女子選手権監督、全日本実連・熊本協会理事、日本協会技術委員
◇**コーチ・池田鉄哉**　日本ビクター監督、芝浦工大出、33才、昭47訪韓全日本実業団選抜コーチ、全日本実連・茨城協会理事、日本協会技術委員
◇**ＧＫ・和田祥子**　立石電機、昭47訪韓全日本実業団選抜代表、昭48第5回世界選手権代表、22才、身長167cm、体重66Ｋ、二俣川高出－大崎電気、公式国際試合出場10
◇**ＧＫ・渡辺久子**　日本ビクター、22才、161cm、59Ｋ、水海道二高出
◇**ＧＫ・久保徳子**　田村紡、昭49訪韓全日本実業団選抜代表、21才161cm、56Ｋ、三重赤羽中出
◇**ＦＰ・島田夏枝**　立石電機、昭46第4回、昭48第5回世界選手権代表、24才、163cm、52Ｋ、熊本氷川中出－大洋デパート、公式国際試合出場18（得点27）
◇**ＦＰ・古佐原ひろ子**　東京重機工業、昭46第4回、昭48第5回世界選手権代表、23才、153cm、48Ｋ小高農高出、公式国際試合出場18（得点35）
◇**ＦＰ・蔵田照美**　立石電機、昭47訪韓全日本実業団選抜代表、昭48第5回世界選手権代表、23才、162cm、56Ｋ、菊地農高出－大洋デパート　公式国際試合出場10（得点26）
◇**ＦＰ・額賀美恵子**　日本ビクター、22才、163cm、60Ｋ、鉾田二高出
◇**ＦＰ・菊地春美**　東京重機工業21才、162cm、61Ｋ、秋田和洋女高出
◇**ＦＰ・山下恵美子**　立石電機、昭48第5回世界選手権代表、21才160cm、57Ｋ、天草農高出－大洋デパート、公式国際試合出場10（得点3）
◇**ＦＰ・有賀とも子**　東北ムネカタ、21才、165cm、57Ｋ、石川高出
◇**ＦＰ・松下仁美**　田村紡、20才163cm、57Ｋ、三本松高出
◇**ＦＰ・加藤美起子**　日本ビクター、19才、164cm、60Ｋ、涌谷高出
◇**ＦＰ・穂積美穂子**　日本ビクター、19才、168cm、64Ｋ、涌谷高出
◇**ＦＰ・河田栄子**　田村紡、19才167cm、70Ｋ、山陽女高出
◇**ＦＰ・紀野奈々美**　立石電機、18才、165cm、63Ｋ、大分東高出
（注）背番号は1和田、2古佐原、3島田、4蔵田、5加藤、6額賀、7山下、8松下、9有賀、10菊地、12渡辺、15河田、16穂積、17紀野、18久保

日本10位，賞讃された攻撃力

第６回世界学生選手権は１月４日から12日まで，ルーマニア（ブカレストなど７都市）に12ケ国の代表が参加，若々しい熱戦をくりひろげた。

第１回(昭38)以来12年ぶりに出場の日本（全日本学生選抜軍，藤松博団長ら役員４，選手15）は10位，優勝は地元ルーマニアがソビエトを激戦の末降して２連勝を遂げた。

日本の遠征総成績は10戦２勝１分７敗。１月16日夜帰国した。

優勝はルーマニア 第６回世界学生選手権

予選リーグ（D組）

参加12ケ国を３ケ国づつ４組に分けた予選リーグは１月４、５、７日の３日間にわたって行われた。大会直前、スウェーデン、デンマークの北欧両国が出場を取り消したため、組み替えが行われ、日本はテイミソアラ市のD組出場（注・当初はC組）と変わった。

日本、後半に崩れる

第１戦(遠征第５戦)・ユーゴスラビア（前回３位）との試合は、１月４日午後６時15分からティミソアラ市のオリンピアスポーツホールで行われた。審判員＝パゾスアロンゾ（スペイン）

ユーゴ 32（17－10，15－11）21 日本

【ユーゴスラビア】		得
GK	ニルコ	0
	ゾムス	0
FP	A・パブロビッチ	5
	ティムコ	5
	パビセビッチ	5
	ゾフコ	1
	D・パブロビッチ	6
	フュイズーラ	1
	リェブスキッチ	1
	ガシヴォーダ	1
	セルダルスジッチ	4
	クリボカピッチ	3
	7MT	32

【日本】		得
GK	斉藤	0
	藤井	0
FP	脇若	2
	蒲生	6
	菊池	3
	布垣	0
	大庭	0
	中馬	0
	菅野	4
	山本	1
	村田	4
	大原	1
	7MT	21

○……一昨年秋、日本に来たゾルコ、ニムス両GKをはじめ４人のナショナルプレイヤーを揃えたユーゴは、細身の日本守備陣を強引な割りこみで崩してきた。

これに対し日本も、互角に射ちあって、いかにも学生チーム同士らしい一戦となった。

しかし、後半になると日本の攻撃は、ユーゴの激しい当りにあって迫力がなくなり、一方のユーゴは、劣えることなく、ゲームスタミナの差がスコアとなって表れた。

日本は技巧ではひけをとらぬが馬力にかける。その意味で大熊（中大＝負傷）の不参加は痛い。

第２戦も終盤力つく

第２戦・ブルガリアとの試合は１月５日午後６時15分からティミソアラ市のオリンピアスポーツホールで行われた。

審判員＝フランティスク（チェコ）、クカルティチビリ(ソビエト)

ブルガリア 29（14－11，15－14）25 日本

【ブルガリア】		得
GK	ポポフ	0
	ヤンキホフ	0
FP	ストヤノフ	1
	ブラスチョフ	1
	S・イワノフ	0
	ナツチェフ	10
	アントノフ	3
	ボデンスキー	1
	ディヤノフ	1
	ドイチノフ	9
	ゲルマニエフ	3
	リスチェフ	0
	7MT	19

【日本】		得
GK	藤井	0
	斉藤	0
FP	脇若	1
	菊池	4
	村田	7
	蒲生	7
	中馬	0
	菅野	4
	山本	0
	松本	2
	大原	0
	布垣	0
	7MT	25

○……昨春の世界選手権で日本が９ゴールを奪われたナツチェフ（１m76、72K）の俊敏なプレーとドイチノフ（１m81、82K）が鋭いシュートをみせ、この二人に日本の守りはゆさぶられ、惜しい星を落とした。

日本の攻撃は、この大会でもAクラスに指折られるものだが、守りに激しさがなく、せっかく主導権を握りながら勝利を逸することになった。

特に、あまりにもディフェンスが６mラインに近づいているため押しこまれ、痛い７MTを課せられた。

▽その他の試合（１月７日）

ユーゴ 19（10－10，9－4）14 ブルガリア

【D組順位】①ユーゴ２勝②ブルガリア１勝１敗＝以上準決勝リーグへ③日本２敗

健斗のポーランド 各国の実力紙一重

予選リーグその他のグループ

▽A組

西ドイツ 16（9－7，7－8）15 チュニジア

チェコ 15（5－5，10－3）8 チュニジア

チェコ 19（12－6，7－6）12 西ドイツ

【順位】①チェコ②西ドイツ③チュニジア

▽B組

ソビエト 27（16－4，11－4）8 イタリア

スペイン 19（9－7，10－3）10 イタリア

ソビエト 25（13－8，12－12）20 スペイン

【順位】①ソビエト②スペイン③イタリア

▽C組

ルーマニア 30（17－6，13－3）9 フランス

全日本学生選手団

▽団長 藤松 博（全日本学連会長代行）
▽監督 田中 秀夫（中大監督）
▽コーチ 小西 博喜（京都産大監督）
▽コーチ 植木 一久（中大コーチ）
▽選手

		氏名	所属	cm	
・GK		藤井 信昭	大阪体大３年	173	・
	○	斉藤将一郎	日体大３年	187	・
・PF	(主)	脇若 正二	早大４年	180	⑤
	○	菊池 悟	早大４年	185	⑲
		松本 義樹	中大４年	173	⑨
		大原 真造	京都産大４年	176	⑭
		布垣 元也	中京大３年	173	②
		岸見 主彦	中京大３年	183	・
	○	村田 幸男	法大３年	176	㉓
		菅野 肇	日体大３年	181	⑬
		大庭 泰	同志社大３年	180	①
		山本 伸二	名城大３年	178	①
		中馬 成一	九州産大３年	180	②
	○	蒲生 晴明	中大２年	192	㉗
		能波 羊二	大阪体大２年	183	・

・大熊昌巳（中大）選手は出発直前右脚骨折のため不参加
・右欄の数字は身長
・○印は日本協会オリンピック候補選手
・○内数字は世界選手権の通算得点（５戦）

ポーランド 27（13—9、14—4）13 フランス
ルーマニア 22（10—10、12—11）21 ポーランド
【順位】①ルーマニア②ポーランド③フランス

9～12位決定リーグ

フランスに惜しくも敗る

予選リーグ各組3位による9～12位決定リーグは1月9、10、12日の3日間にわたってプロエスティ、ピテスティの両市で行われた

第1戦（遠征第8戦）・フランス（C組3位）との試合は1月9日18時15分からプロエスティ体育館で行われた。審判名未詳

フランス 29（14—13、15—10）23 日本

○……同型の両国だったが、フランスの試合運びに一日の長があった。

フランスは前半1—2から一気に5点をあげ、さらに7—5と迫られたあと6点連取した2度のラッシュが利いた。

【フランス】	得		【日本】	得
ヴァリノ	0	GK	斉藤	0
トルクティン	0	GK	藤井	0
ボーテリエール	3	FP	蒲生	4
レイ	2	FP	菊池	4
ラボイル	2	FP	大庭	0
バルゼール	6	FP	中馬	0
マルティネ	7	FP	村田	7
グラーヴ	6	FP	菅野	0
モウレット	2	FP	松本	4
ヴィシオリン	0	FP	大原	3
ヴィライン	1	FP	布垣	0
グランジャン	0	FP	脇若	1
	29	7MT		23

日本は後半10—17から激しく追いあげ17分には18—20まで詰めたのだが、フランスはバルゼル（1m86、88K）の巧技で優位をキープ、日本の反撃をかわした。

イタリアを押しまくる

第2戦・イタリア（B組3位）との試合は1月9日午後6時15分からピテスティ体育館で行われた 審判名未詳

日本 22（7—6、15—6）12 イタリア

【イタリア】	得		【日本】	得
マネオニ	0	GK	斉藤	0
マジエリ	0	GK	藤井	0
ダリュウ	8	FP	脇若	1
セルムソーニ	1	FP	村田	1
ベルドルニ	1	FP	菊池	4
ギナグリ	0	FP	蒲生	4
コロナ	0	FP	松本	1
ド・プティ	0	FP	大庭	1
ガルヌボウ	0	FP	中馬	1
カトーニ	0	FP	大原	4
ヌーネル	0	FP	布垣	2
ルネール	0	FP	菅野	3
	12			22

○……日本は、前半、菅野、布垣の好プレーでリードを奪い、順調にリードを奪った。

ウィークポイントの守備も、イタリアの攻撃がダリュウ一人に頼る単調さなので、破たんはみせず一方的になるかとみえた。

イタリアも後半になると、日本のプレーになれ、手固くポイントをあげたが、日本には余裕があり10分17—9、20分19—10と主導権をはなさず、そのまま押し切った

日本は、12年前の大会では3敗

上位へ守備力の強化が課題

団長 藤松 博（談）

10大学からの混成で心配な面もあったが、終始チームワークのよくとれた行動で、遠征を無事終えることができた。

大会のムードも上々で、いかにも世界の若者の集いらしく、試合を終って宿舎で、各国の選手が片コトの言葉を互いに交しハンドボールの話をしあっている風景は、すがすがしかった

大会当局も、明きらかにIHF（国際ハンドボール連盟）の主催する大会とは、別の方向を意識して運営、格式ばったセレモニイはいっさいなし。持参した日の丸はいちども使わずじまいだった。

予選リーグに、地元の単独大学チームが参加したのは、親善・友好の好企画で、ルーマニアの層の厚さを示した。

もちろん、技術的にも、各国の次代を荷う選手が顔を揃え、思い切ったプレーを見せたので、大いに盛りあがった。

特に、東欧勢とスペインの実力は際立っていた。

日本は、攻撃力は、参加国のなかでも上位と思うが、やはりナショナル同よう、ディフェンスに課題がある。強引なポストプレーを支え切れず7MTをとられては失点、これが響いた。

この面さえ解決されればベスト8はもちろん、ベスト4も狙えると思う。

また、ヨーロッパ各国は、互いの交流が盛んで、相手の情勢をよく知っている。その点、日本はすべてゼロの状態でスタートするというハンデがある。

ユニバシアードへの参加は、各国考えかたがまちまちで、いまのところ積極的な姿勢はどこももっていないようだ。

往路に立ち寄ったスウェーデン、デンマークは、ポストプレー多用の展開で、力づくの東欧と好対照

このほか中・西欧流の試合ぶりがあり、世界の三つの流れをはっきりと目でたしかめたのは各選手にとって大きな収獲であったろう。

日本が、今後この大会で好成績を望むなら、学生ナショナルの計画的強化か、規定で許されているOE（注・卒業後2年まで）の参加を考える必要がある。次回については期日、開催地など一切白紙のようだ。

（文責・編集部）

に終っており、この大会〝初の1勝〟であった。

日本、前半のリード守る

第3戦（遠征最終戦）・チュニジア（A組3位）との試合は1月12日午前10時からピテスティ体育館で行われた。審判＝カレル、リバーチ（チェコ）

日本 25（15―8、10―15）23 チュニジア

	チュニジア	得
GK	ハムザ	0
	エル・オウアル	0
FP	アルウルウ	3
	アチョール	1
	セバブティ	6
	ジロウン	0
	レバイ	3
	ベン・ジャミ	1
	アザイエス	1
	H・ベル・ハジャ	4
	A・ベル・ハジャ	4
	チャブチョウブ	0
		23

	日本	得
GK	藤井	0
	斉藤	0
FP	蒲生	6
	村田	4
	菊池	4
	脇若	0
	菅野	2
	松本	2
	中馬	1
	大原	6
	布垣	0
	岸見	0
		25

○……序盤のせりあいから、まず日本が脱け出し12分から4点連取前半終了間ぎわには大原の連続3ゴールなどあって大差がついた。

しかし、チュニジアは粘り強く後半9分10―19と離されたあとからじわじわと反撃、特に18―23のあと両ハジャが交互にポイント残り2分で22―23とされた時は、追いつかれるかと感じた。

日本はこのあと、当っている大原がゴール、チュニジアもジャミで再び1点差としたが、大原がダメ押し点をあげて、2勝目をあげることができた。（各試合の後記は田中秀夫監督の談話を編集部でまとめたもの）

▽その他の試合（1月9〜12日）

チュニジア 14（6―5、8―9）14 イタリア

フランス 19（11―9、8―7）16 チュニジア

フランス 14（7―7、7―6）13 イタリア

【順位】⑨フランス3戦全勝⑩日本2勝1敗⑪チュニジア1分2敗（得失点差マイナス5）⑫イタリア1分2敗（マイナス11）

準決勝リーグ

▽A組（1月9、10日）

ソビエト 25（13―9、12―4）13 西ドイツ

スペイン 16（10―7、6―4）11 チェコ

ソビエト 30（12―8、18―13）21 チェコ

スペイン 25（10―7、15―11）18 西ドイツ

チェコ×西ドイツ、ソビエト×スペイン戦は予選リーグの記録を適用

【順位】①ソビエト②スペイン③チェコ④西ドイツ

▽B組（1月9、10日）

ルーマニア 29（14―7、15―9）16 ブルガリア

ポーランド 18（8―11、10―7）18 ユーゴ

ポーランド 20（11―6、9―9）15 ブルガリア

ルーマニア 22（11―5、11―9）14 ユーゴ

ルーマニア×ポーランド、ユーゴ×ブルガリア戦は予選リーグの記録を適用

【順位】①ルーマニア②ポーランド③ユーゴ④ブルガリア

激戦、ソビエト栄冠逸す

順位（1〜8位）決定戦

▽決勝戦（1月12日・ブカレスト）

ルーマニア 18（7―6、11―11）17 ソビエト

	ソビエト	得
GK	イチェンコ	0
	トミン	0
FP	セルニゼフ	0
	レザノフ	6
	フェディウキン	0
	ストリアロフ	1
	ラグティン	0
	プラホティン	1
	マホリン	4
	オガネゾフ	2
	ガシ	0
	クラフトフ	3
		17

	ルーマニア	得
GK	ヴァシラーシュ	0
	オルバン	0
FP	ステフ	1
	キクシド	8
	ボアニア	2
	ドラガニタ	1
	ビルトラン	1
	コスマ	3
	ツドシェ	0
	ストックル	1
	オダイエ	1
	ローズ	0
		18

▽3位決定戦（1月12日・ブカレスト）

ポーランド 17（7―5、10―11）16 スペイン

	スペイン	得
GK	マゴアガ	0
	モレノ	0
FP	アンドリュー	6
	ヴィラマリン	1
	ノバレス	0
	グェスタ	1
	アンドレス	0
	ラバカ	1
	バルセルス	1
	カスカラーナ	6
	モランテ	0
	オルテガ	0
		16

	ポーランド	得
GK	スジムザク	0
	ロスミマレク	0
FP	パナス	4
	ブンダード	4
	ディボル	2
	ヤクボウスキー	0
	スコロブスキー	1
	グミレク	5
	ブルゾゾウスキー	1
	ヤドリンスキー	0
	ジリンスキー	0
	スラバ	0
		17

▽5位決定戦（1月12日・ブカレスト）

ユーゴ 32（16―5、16―12）17 チェコ

＜得点者＞ユーゴ＝パピセビッチ6、ビダコビッチ、クリボカピッチ各5、ティムコチ、ボヨビッチ、D・パブロビッチ各3、フェイズーラ、リュブスキッチ各2、ジェムレモビィッチ、ゾフコ各1

チェコ＝M・ホルバス6、ザヤクハンスル各4、ドブロッカ2、バシク1

▽7位決定戦（1月12日・ブカレスト）

ブルガリア 25（14―5、11―10）15 西ドイツ

＜得点者＞ブルガリア＝ボデンスキー6、カラコロフ5、ドイチノフ4、S・イワノフ7、Y・イワノフ、ゲルマニエフ、アントノフ各2、ストヤノフ、ディヤノフ各1、

西ドイツ＝メイネック6、テッズラフ、ラップ、レーリック各2、デーメル、サッテル、ギーゼラー各1

（6〜8頁の記録のうち一部は本誌調べ）

ルーマニア学生との親善試合

この大会では、初の試みとして予選リーグ各組に、ルーマニア学生界のトップチームが、単独で加わり、親善試合を行った。

激しいナショナルマッチのあいまに、和やかなムードの試合がくりひろげられたが、日本のD組には、ルーマニアでも屈指の強豪で昨夏中国遠征を行って話題をまいたティミソアラ工業学院大学が参加した。

本誌調べでルーマニアリーグ第4位（1月3日現在）の実力者。日本から1勝をもぎとったほかブルガリアと引き分け、ユーゴとも前半リードを奪う善戦だった。

また、A組ではクルージュ大学が、チェコをはじめ参加各国をなで切りにする〃大波乱〃があった

▽D組（1月7日・ティミソアラオリンピアスポーツホール）

ティミソアラ工業学院大 28（13－11, 15－8）19 日本

得	【日本】		【ティ学院】	得
0	斉藤	GK	ビリエスク	0
0	藤井	GK	オメスク	0
1	脇若	FP	フォルカー	4
2	大原	FP	フェハー	1
0	山本	FP	ディリック	0
4	菊池	FP	ボンヘルス	3
3	村田	FP	ビクター	4
7	蒲生	FP	シミオン	1
1	大庭	FP	ディートル	9
0	岸見	FP	ヘルムス	3
1	菅野	FP	ボアク	3
0	山本	FP	オスカー	0
19				28

ティミソアラ工業学院大 17（9－11, 8－6）17 ブルガリア 引き分け

ユーゴスラビア 16（5－6, 11－7）13 ティミソアラ工業学院大

▽A組

クルージュ大 16－15 チェコ

クルージュ大 16－12 西ドイツ

クルージュ大 22－13 チュニジア

▽B組

スペイン 12－10 ガラチ大

ソビエト 21－15 ガラチ大

ガラチ大 18－14 イタリア

▽C組

ポーランド 22－9 イアシ農大

ルーマニア 30－8 イアシ農大

イアシ農大 17（分）17 フランス

国際親善試合

昨年12月23日羽田を発った日本は、本大会前、スウェーデン、デンマーク両国に立ち寄り地元チームと親善試合（全4戦）を行なった。

両国とも、本大会への出場が予定されていたが、北欧4国対抗と期日が重なったため棄権となり、北欧特有のポストプレーを中心としたオフェンス上位の試合ぶりに触れる唯一の機会だった。

対戦のクラブは、いずれも両国の最上位リーグに属する強豪で、特にKFUM・アーハスは昨年のデンマークチャンピオン、今シーズンも2位（9戦6勝1分2敗、ちなみに昨春来日のスタジオン・IFは現在6位）というヨーロッパ屈指の名門、ヘルジンガー・IFはこれまた4位にランクされているチーム。

スウェーデンのルギ・ルンドはルンド大学体育専科校のチームでスウェーデンリーグに属し、今シーズンは現在4位（11戦5勝2分4敗）。今秋、日本遠征の希望をもっている。＝この項、記録は本誌調べ、12月25日現在。

▽遠征第1戦（12月26日、スウェーデン・ルンド）

ルギ・ルンド 24（9－5, 15－14）19 日本

▽同第2戦（12月27日、デンマーク・グラエステド）

日本 23（10－12, 13－11）23 ヘルジンガー・IF

▽同第3戦（12月28日、デンマーク・リィ）

KFUMアーハス 29（11－10, 18－12）22 日本

▽同第4戦（12月29日、スウェーデン・テレボルグ）

テレボルグ選抜 28（14－11, 14－12）23 日本

世界学生余滴

世界選手権組ずらり

上位は予想どおり東欧勢が占めたが、いずれも昨年3月の世界選手権メンバーを主力にしているのが特徴。

ルーマニアはビルトラン（世界選手権得点王）をはじめコスマ、GKオルバン、キクシドら8人、ソビエトもマホリン、ラグテイン、GKイチエンコら8人、このほかポーランド5人、スペイン6人といった具合（注、日本は菊池、村田蒲生の3人）。スペインのラバカ（173cm）とサガリバイ（185cm）は今春グラノラースの一員として来日するハズだ。

蒲生、個人得点10傑に

大会当局が発表した個人得点によると、1位は31ゴールをあげたJ・ラグティン（ソビエト、184cm 85K）。日本の蒲生（中央）は23ゴールで7位だった。

しかし、外電によると蒲生は27ゴールで4位にランクされている（注・本誌の計算でも27点）。

フェアプレー賞は西ドイツ

大会全試合を通じて、もっとも反則退場時間（通算）が少ない国に与えられるフェアプレーカップは5試合で2分退場を2回課せられただけの西ドイツに決まった。

日本は14分間で3位、最多はチュニジアの44分間だった。

学連、2日に改選　全日本学連は2月2日、東京・岸記念体育会館で全国役員会を開き、任期満了にともなう役員改選を行う。

あいつぎ来日

スコダ・ピルゼン

グラノラース

日本協会は恒例の「新シーズン開幕国際親善試合」として、今春はスペイン男子チャンピオン「バノンマノス・グラノラース」の来日を決め、中堅チームを中心とした日程の編成を急いでいたがこのほど、次のように内定をみた。

グラノラースが4月8日帰国（離日）を希望しているため、この日に予定された横浜大会（第5戦）の開催が難しくなった。

同大会を、他の期間内に移すか別会場で1試合追加するかはいまのところ未定。

【グラノラース日程】▽来日、3月30日（福岡または羽田）▽第1戦31日、対熊本市商OBク（熊本市体育館）▽第2戦 4月2日、対二和家具（岐阜県営体育館）▽第3戦 5日 対蒲郡ク（愛知・蒲郡市体育館）▽第4戦 6日 対静農ク（静岡県営草薙体育館）

◇

また、日本協会はミュンヘンオリンピック（昭47）2位当時の3選手を擁するチェコ男子チャンピオン「スコダ・ピルゼン」の来日について、昨秋来、検討を進め、昨年12月の全日本総合選手権上位4チームと、その所属協会に個別折しょうしていたが、受けいれの見通しがつき、近く具体的な計画にはいる。

同チームは、ことしのヨーロッパ杯でも、すでにベストエイト進出を決めている強豪。3月13日から23日まで訪日、3試合を希望している。

なお、スペイン、チェコのハンドボールチームが来日するのは、男女を通じて初めてのこと。

デンマーク女子は断念？

全日本実連が、第3回NBN杯全国選抜女子大会（3月20日から名古屋の予定）のゲストチームとして招待準備をしていたデンマーク女子の「ストイエルネン・IF」は、交渉が進まず白紙となり、代って「ナストフト・IF」に来日を打診していたが、本誌〆切り（1月25日）までに話合いがつかず当初の計画断念の色が濃くなった。

デンマークチームが不参加の場合、NBN杯大会は、国内チーム（実業団）だけで開かれる予定。

実連、欧州遠征か

全日本実連は、傘下チームの強化を企るため、今春4月上旬から男子選抜軍のヨーロッパ派遣を行うことになり、準備にはいった。

IHF首脳陣、クェートへ

IHF（国際ハンドボール連盟）理事・渡辺和美日本協会副会長はアジアハンドボール連盟（AHF）問題の〝目〟ともいうべきクウェート協会と、今後のアジアハンドボール界の諸問題を話しあうため1月19日空路出発した。

渡辺理事の話によれば、クェート協会は1月20日から31日までクエート市でエジプト、ヨルダン、リビア、シリア、クエートによる国際大会を開くことにしており同理事をはじめヒュークベルグIHF会長（スウェーデン）、リンケンバーガーIHF事務総長（西ドイツ）、ヴァドマークIHF常任理事（スウェーデン）らが招かれている。

IHF首脳陣のクエート集結によって、AHF問題が、どのような進展を示すか注目されるが、クエート国際大会には、パレスチナ（IHF未加盟）が参加する噂もあり、アジア情勢の糸が、すっきりするまでには、かなり時間がかかりそうだ。

渡辺理事は、オーストラリア協会（IHF仮加盟国）を訪れたあと、2月4日頃帰国の予定。

日本からは3氏 IHF国際審判員

IHFはこのほど、「一九七五年度国際審判員名簿」を発表した。今回の名簿に登録されているのは、39ケ国260名で、日本からは安藤純光、佐野和夫、岡前義春の3氏がリストアップされている。

なお、今年度から国際審判員の年令は28～50才に限定された。

大観衆集めた中国遠征

チミソアラ工業学院7勝1分

近着のIHF公報と、「週刊ハンドボール」誌（西ドイツ）は相次いで、今夏8月中国を訪れたルーマニア・チミソアラ工業学院大（＝本誌123号参照）の短かいリポートを載せている。

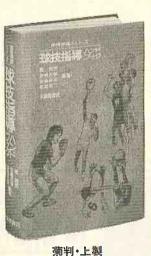
それによるとチミソアラ工業学院大は北京、上海、広東で中国チームと8試合を行い7勝1分。引き分けたのは中国選手権1位の「コアムシ」との一戦でスコアは19—19。

この8試合に集った観衆は八万四千、特に北京での3試合は毎試合一万八千の大観衆で体育館が埋まった。

中国では、すでに毎年、各州各省からの代表によって「全国選手権」が争われており、学生、労働者、軍隊のチームが中心。

少年、少女のための大会も盛んに行われているそうだ。

（注）「コアムシ」は原文音訳

「日本協会登録」一部改正へ

日本協会は12月14日の月例常務理事会で、「昭和50年度日本協会登録」について協議、規定の一部改正を進めることになった。

これは、新たに高専の日本協会登録（注・これまでは一般に登録していた高専が多い）を実施することや、国体が年令別を採用することにともなうものである。

「日本協会登録規程」の改正は1月26日の全国理事会（東京）で審議される予定。

また、登録料はすべて2月22日の全国代議員会（東京）で決められる。登録改正案のうち主な点は次のとおり。

【高専の登録について】

・原則として、すべてこれまでの「高校」に準じる（用紙は新規）

・登録料などは、すべて「高校」と同額とする。

・全国高専選手権への出場校は日本協会登録ティームに限る。

（注）高専で3年生以下の編成によるティームが、全日本高校選手権へ出場を望む場合の取扱いについては、今後の全国理事会で協議する

【国体について】

・いかなる種別とも「学生」の出場は認めない。「学生」とは各地学連登録者のみに限らず、大学生という身分をもつ総てを指す。

・大学院生、洋裁学校など各種学校の生徒（学生）は、「学生」とはみなさない。予備校生も同ようである＝この項49年10月13日の全国理事会決議。

・三重国体成年の部に参加する者の年令は昭和32年4月1日以前に生まれた者に限る。

・三重国体少年の部に参加する者の年令は昭和32年4月2日以降に生まれた者に限る。ただし中学生は参加できない。

・少年の部（男女）に参加しようとするチームは規定の用紙（新規）に登録料を添えて、各都道府県協会を通じ7月31日までに新設の日本協会「少年」へ登録手続きしなければならない。

ただし、すでにその年度、日本協会「高校」「高専」の部に登録されたチームが、その学校単独で少年の部（男女）に参加しようとする場合は、改めて「少年」に手続きする必要はない。

〔編集部注〕国体少年の部は規定内の年令なら、高校生以外の者も参加できる。すでに単独実業団のジュニアチームや、中学ＯＢ（ＯＧ）クの編成が伝えられているし、高校でもこれまでの全県選抜のほか、二、三校による連合や市単位の混成チームが準備されているようだ。

佐賀国体（51年）縮少か

来秋に予定される佐賀国体（第51回国体、ハンドボールは神埼町）は、地元での縮少・改善要求が導火線となって、日本体協も検討を迫られることになり、なりゆきが注目されていたが、1月21日東京で開かれた日本体協国体委員会は今春3月末までに、文部省、日本体協、佐賀県の三者が話しあい、改めて「実施案」をつくることを申しあわせた。これにより、一部で伝えられた「返上」はさけられそうだ。

佐賀県側は、参加人員（総数）を47年に改訂された国体開催基準要項3ランク（一万六千五百、一万四千五百、一万二千五百）のうち最少で望んでおり、成年男子42チーム（内訳一般32、教員10）同女子10、少年男子10、同女子18を予定していたハンドボール競技も、かなり手直しされよう。

永く友情のかけ橋を

水海道国体委が書簡集刊行

昨秋10月、第29回国体ハンドボール競技を盛況裡に開いた茨城・水海道市実行委員会は、このほど帰郷した各県選手から民宿先の各家庭へ送られたお礼状や、想い出をつづった手紙141通を集め「友情のかけ橋」として一冊にまとめ、関係者に配付した。

1月26日に全国理事会

日本協会は1月26日午前10時から東京・岸記念体育会館で全国理事会を開催、現役員（48・49年度）による最終会議となる予定。

また新理事（50・51年度）の各ブロック、各加盟団体からの届出〆切は2月22日。初理事会は3月初旬の予定。

注目の初代議員会は2月23日午前10時から岸記念体育会館で開かれ、会長、副会長などを決めることになっている。

全国中学生は小松市で

日本協会は、未定の全国大会50年度日程を、次のように確定した。第22回ＮＨＫ杯（国際試合）はいまのところ白紙。

【第4回全国中学生大会】8月17、18日・石川県小松市立芦城中学校

【第27回全日本総合選手権】12月10～14日・東京体育館

自衛隊は5月 全日本自衛隊連盟は第7回全日本自衛隊選手権の日程を5月22日から25日までの4日間と決めた。22、23日は東京・駒沢第2球技場、24日は駒沢体育館、25日は東京練馬・自衛隊体育学校体育館の予定。

自衛隊連選出理事代る 全日本自衛隊連盟はこのほど、早坂勢三氏に代って古庄昌雄氏を日本協会派遣理事とすることに決めた早坂氏が日本協会代議員をつとめるため。

海外駐在代表新任 日本協会はこのほど海外駐在代表としてクウェート滞在の綿貫敏雄氏（早大出、前日本協会審判部委員）を推せんすることに決めた。

山形協会長に山本氏 山形協会はこのほど会長に山本竹司氏（山形テレビ社長、竹田女子高校長）を決めた。

〃〃〃〃〃

東京重機を推せん

日本スポーツ（部門）賞

日本協会は、12月の月例常務理事会で読売新聞社制定の「第24回日本スポーツ賞」部門賞として今年度の女子全日本総合選手権と全日本実業団選手権を獲得した東京重機（東京）を推せんした。女子の実業団が表彰されるのは5年ぶり、愛知紡（愛知、現在廃部）、大洋デパート（熊本、2回受賞、現在廃部）、田村紡（三重、2回受賞）についで4チーム目。

東京協会が義捐寄付

東京都協会は、昨年12月ＮＨＫの歳末助けあい運動に二三、八四一円を寄付した。

これは、昨年8月31、9月1日の両日東京体育館で開いた日本東ドイツ国際親善試合の際、プログラムを無料配布した代りに、観客から義捐金の寄付をあおいだもので、8月31日の試合がＮＨＫ杯であったことから、ＮＨＫの運動に協力したもの。

アジア代表は「A」に定着

IHF 世界選手権新法式を公表

機関誌前号（126号）に報じられた男子世界選手権のグループ制採用にともなう新システムについてIHF（国際ハンドボール連盟）から、正式な通達がこのほど日本協会へ送られてきた。

（久田 暁・国際担当理事）

オリンピックもAグループに

（IHF公報106号）IHF加盟国の増加にともない、各国のナショナルチームをABCの3部門に配分し、CからBへ、BからAへと昇格する可能性をもたすことにより、弱少チームも、真の世界選手権に参加できることとした。今まで、これらのチームは、世界選手権には予選にしか参加できなかったのである。

Aグループ以外の各グループも世界選手権の名の下に行われる。（例えば第9回世界男子選手権Bグループといったように。）

IHFは、新システム採用にともない次のような日程を決めた。

▽一九七六年（昭51）七月 モントリオール・オリンピック

▽一九七六年 第9回世界男子選手権Cグループ

▽一九七七年 第9回世界男子選手権Bグループ

▽一九七八年 第9回世界男子選手権Aグループ

▽同 第10回世界男子選手権Cグループ

▽一九七九年 第10回世界男子選手権Bグループ

▽一九八〇年八月 モスクワ・オリンピック（第10回世界男子選手権Aグループを兼ねる）

▽同 第11回世界男子選手権Cグループ

▽一九八一年 第11回世界男子選手権Bグループ

グループ分けは、とりあえず第9回選手権に関しては次のようにする。

▽Aグループ（16ケ国）＝モントリオールオリンピックの上位6ケ国、一九七七年のBグループ上位6ケ国、アジア、アフリカ、アメリカ各大陸代表1ケ国、開催国。

▽Bグループ（12カ国）＝モントリオールオリンピックにヨーロッパ代表として参加した8カ国のうち下位2カ国、モントリオールオリンピックヨーロッパ予選の各グループ（7組）の2位国7カ国、一九七六年のCグループ上位2カ国、開催国。

▽Cグループ アジア、アフリカ、アメリカ大陸を除くすべての国（ただし、すでにA、Bグループへ出場資格を既得している以外の国に限る）

◇

ヨーロッパ専用のB・C
女子はこれまでどおり

大要は、機関誌既報のとおりだが、注目されるのは、モスクワオリンピック（一九八〇）をAグループとみなしている点だ。

オリンピックと世界選手権の両方をもつ他の競技でも、これは採られている方法である。

したがって、Aグループはつねに、アジア、アフリカ、アメリカ大陸の代表権が最低1カ国は確保されることになるわけで、このシステムがつづく限り、日本は仮にAグループの最下位になってもBグループ落ちすることはない。

そのかわり、Aグループの前年に行われる大陸別予選で敗れればB、Cグループに出場することはできず、極端に云えばBとCグループは、ヨーロッパ下位国専用である。

このあたりが、今後このシステムの論点となりそう。

IHF筋は、ヨーロッパ大陸以外の加盟国が、ストレートでAグループに出場できる権利を捨ててまで下部には参加しまい、とみているようだが、各大陸とも歴史の浅い新進国が多いだけに、当分の間Aグループよりも、BまたはCで活動したい、というところもあるハズだ。

いずれにせよ、日本はこれまでどおり、オリンピックを含むAグループのアジア予選にのみ焦点をあてて、選手強化を進めればよいわけで、グループ制の採用による大きな路線変更は生じまい。女子はまったくこれまでと変わらず運行される。

なお、第9回大会のAグループは78年3月デンマーク、Bグループは77年2月25日〜3月6日オーストリア、Cグループは来年イギリスで、それぞれ行われる予定。

このほか、IHFは、競技規則の中に「競技中、ベンチ入りできる人数は交代選手（5名）と、4名の役員計9名のみ」を成文化することを決めた。これ以外、一九七六年までは、大きなルールの手なおしは行なわないことも明らかにされている。

また、公式試合のコートは40m×20mの室内で行われるが、「例外は慎重な調査を経てのみ可能」といくぶん緩和された。新しい事業の一つ、一九七七年に予定されるジュニアの世界選手権は「男女とも21才以下」が確認された。

東京重機、総勢8人で栄冠飾る 女子

～第26回全日本総合選手権～

男子 大同製鋼、健斗の三景破り「3冠」

ことしの日本一は男子・大同製鋼（愛知）、女子・東京重機（東京）に決まった――第26回全日本総合選手権は、昨年12月11日から15日までの5日間東京体育館に全国最上位にランクされる男子16、女子12チームが参加。予選トーナメントのあと男子はベストフォア、女子はベストスリーによってナショナルチャンピオンシップを総当り戦によって争った。

男子は、学生1位の早大（東京）が、本田技研鈴鹿（三重）に敗れ、史上初めて実業団による決勝リーグとなったが、オリンピック候補5人をもつ大同製鋼（愛知）が、充実した攻守で2年連続2度目の優勝を遂げた。三景（東京）が準優勝を飾る健斗で大会を盛りあげた。

これで大同は、6月の全日本実業団、10月の茨城国体と併せて国内の3大タイトルを獲得、昨年度のNHK杯を含む4大タイトル独占につづく偉業を成就、全国大会7連覇をマークした。

女子は、予想どおりの展開から東京重機（東京）と日本ビクター（茨城）が対決、重機は総勢8人というハンデキャップをチームワークで克服、2年ぶり2度目の栄冠を手にした。（観衆・第1日＝一千、第2日＝八百、第3日＝一千二百、第4日二千、第5日＝二千五百）

早大（学生1位）、本田技研に屈す

男子

▽予選トーナメント1回戦

本田技研（実推・三重）29（11－12、18－4）16 京都ク（全国社会人西地区・京都）

三景（実推・東京）31（18－4、13－7）11 久留米工（高体連推・福岡）

三菱レ大竹（実推・広島）16（10－5、6－9）14 三春台ク（全国社会人東地区・神奈川）

【三景】	得		【久工】	得
佐藤	0	GK	原島	0
小林	0	GK	弥永	0
佐々木	5	FP	赤司	0
加藤	8	FP	長野	4
高梨	2	FP	秋吉	1
内藤	6	FP	椿原	3
山村	3	FP	中島	2
川島	4	FP	山下	0
高森	3	FP	小柳	0
喜田	0	FP	緒方	0
大森	0	FP	武藤	1
塩田	0	FP	大森	0
	31	（3）7MT（1）		11

（審・清水・安藤）

大崎電気（実推・埼玉）24（16－7、8－5）12 同志社大（学推・京都）

早大（学推・東京）20（12－11、8－8）19 法大（開催地・東京）

＝以上Aコート

大阪イーグルス（教推・大阪）22（11－2、11－5）7 海上自衛隊鹿屋（自推・鹿児島）

湧永薬品（日協推・大阪）23（12－8、11－8）16 中大（学推・東京）

大同製鋼（日協推・愛知）30（14－13、16－4）17 茨城教員（教推・茨城）

＝以上Bコート

○……Aコートでは、前年につづき三春台クの健斗が目立った。

実業団6位の三菱レ大竹は、前半ディフェンスが立ちなおった15分すぎから、攻撃のリズムもととのい、大江、山川、重村らが速攻を決めてハーフにはダブルスコアとした。

しかし、三春台クも粘りつき、尾島の連続4ゴールなどで後半16分には10－12、終盤に興味をつないだ。

三菱レは、ここですぐに大江、山川が3点を連取したのがよかった25分12－16から三春台は斉藤の2ゴールで、なお反撃の気勢を示したが及ばなかった。

久留米工、力つきる

○……注目の久留米工は、巧者を揃えた三景をむこうにまわし、前半10分までは、スカイプレーを織りまぜるなど互角だった。

10分をすぎるころから、ポストサイド、スカイを巧みに使い分ける三景のゆさぶりが、じわじわと久留米を圧迫しはじめ20分10－4

後半の追いこみに自信をもつ久留米は、1分長野の得点で、これはと思わせたが、再び三景の多彩な変化技を受けて10分20－8、勝負がついた。

さすがの高校王者も、優勝候補が相手では荷が重かったが、長野椿原、中島ら、夏の立役者たちのプレーは鋭いものがあった。

このほか、本田技は終盤、福井松居らで反撃してくる京都クを余裕をもってかわし、大崎電も立ちあがり同志社に1－3とされたものの、すぐに主導権を奪って楽勝した。

早大、法大を振り切る

○……Bコートではこの日のハイライト、早大×法大が期待どおりの激戦を演じた。

二転三転、エキサイトした経過から、早大が残り1分菊池（オリンピック候補）で19－18とした時は勝負あったとみえた。

ところが法大は20秒後、村田（オリンピック候補）の巧シュートでこの試合10回目のタイスコア。

延長を嫌うかのように早大は残り30秒にすべてをかけてラッシュ7MTを誘い、山高が鮮やかに決めて、さしもの激戦にケリをつけた。

試合は立ちあがりから打撃戦となり、最初の10分間を早大が4－2とすれば、次の10分間は法大が4－2。後半も、早大の3点連取をすぐに法大がとりかえし、後半なかばからは法大が押し気味となった。特に20分には17－13と開き一気に勝負をつける絶好機だったのだが、菊池、山田克ら早大の突進を防ぎ切れず追いつかれた。

これは、早大にもいえることだが、このような接戦では先行した時、いかにその差をキープできるかがカギなのにディフェンス力が足りない。

そのために、見た目は華々しい試合も、内容という点では、いか

○……教員、自衛隊の1位同士・イーグルス×海上鹿屋はイーグルスの巧みな試合運びが、一本調子の鹿屋を押しまくり快勝、大同鋼×茨城教も、大同が前半15分で早くも8−2とする猛攻、茨城は後半、大同がメンバーを若手に切りかえたスキをついて中村、塚田、中山でポイントしたが、大勢をくつがえすには遠かった。

ベストフォア 実業団が独占
三景はイーグルス制す

▽同2回戦（決勝リーグ進出チーム決定戦）

本田技研 15（5−8、7−4、1−0、2−1）13 早大
鈴鹿

○……本田、早大とも同じように勝機をつかみながら、試合運びが荒く、最後は、本田が、エース佐藤（オリンピック候補）の活躍で辛くも勝利をものにした。

後半なかばまでは、早大のペース、前半終了まぎわの3点連取を活かし、後半8分には10−6と開いたのだが、そのあと得点が止まり、本田は18分ようやくタイにできた。

しかし、本田はこのあと柳、新実（オリンピック候補）が反則退場をくい、どうしても先手をとれぬばかりか、27分川畑にゴールを許して危かったのだが、残り30秒佐藤が回生のシュートを決め延長へもちこんだ。

こうなると本田に余裕が生まれ田上の好配球から佐藤が3ゴール早大の反撃を1点におさえ逃げ切った。早大はつねに先行しながら勝ちを落としたのは悔やまれよう。（杉山　茂）

三　景 17（6−6、11−10）16 大阪イーグルス

○……互いにセットの変化からスカイプレー、ポストプレーを応しゅう、玄人（くろうと）好みする試合だった。

後半5分9−9、このあと三景が3点連取すると、イーグルスもすぐに4点を奪い再び互角のまま残り5分に勝負がかかった。

ここで三景が25分30秒高梨、27分川島で2点をあげ16−14としたのが、結果的に勝因となった。

この2本のプレーは、イーグルスのディフェンスもけして悪くなかったのだから、三景のパスプレーを賞すべきだろう。

イーグルスは28分30秒安達で1点差に詰めたが、三景も強気に攻め立て29分10秒加藤がおどりこんで17−15、メドがついた。（荒川清美）

湧永薬品 27（11−6、16−0）6 三菱レイヨン大竹

○……多彩な攻めをもつ湧永に対し、三菱レはやはり大江にボールが集まりすぎる。

湧永ディフェンスにしてみればこれほど的（まと）をしぼりやすいことはなく、一方的な経過となった。

特に後半は、湧永が気をゆるめることなく攻めたてたため10分には20−3と差が開いて、勝負の興味がまったく失われてしまった。（杉山）

大同製鋼 17（10−4、7−2）6 大崎電気

○……復調を伝えられる大崎だったが、前半15分をすぎる頃から地力があらわれはじめ、特に厚味のある大同ディフェンスを切り崩すだけのスピードがなく、前半17分から26分間無得点におさえこまれてしまった。

大同も、本来の調子とはいえず前半は花輪（オリンピック候補）が7MT3本を含む6ゴールをあげる活躍に頼り、国内最上位にランクされる同士の対戦にしては、盛りあがりにかけた。

なお、大崎GKは前半7分からかつての全日本メンバー・名手福本（芝浦工大出、35才）がつとめ元気なところをみせた。（佐野和夫）

歴代チャンピオンチーム

	【男子】	【女子】
昭12	大塚ク	……………
昭13	日体	……………
昭15	日体	倉敷高女
昭17	日体倶	倉敷高女
～以上，戦前の全日本選手権～		
①昭25. 2	日本桜	愛知ク
②昭25. 11	スワロー松	全山梨
③昭26	スワロー	芙蓉ク
④昭27	セントポールA	（休会）
⑤昭28	全日体大	全静岡城北高
⑥昭29	全日体大	全静岡城北高
⑦昭30	西日本日体OB	水海道二高
⑧昭31	全日体大	半田高
		（以上11人制）
⑨昭32	全日体大	愛知紡績
⑩昭33	全日体大	愛知紡績
⑪昭34	芝浦工大	愛知紡績
⑫昭35	芝浦工大	愛知紡績
⑬昭36	芝浦工大	愛知紡績
⑭昭37	大崎電気	愛知紡績
	（以上11人制）	
⑮昭38	立教大	大洋デパート
⑯昭39	大崎電気	大崎電気
⑰昭40	大崎電気	大洋デパート
⑱昭41	全立教	大崎電気
⑲昭42	大崎電気	田村紡績
⑳昭43	全立教	大洋デパート
㉑昭44	全立教	大洋デパート
㉒昭45	大崎電気	大洋デパート
㉓昭46	大崎電気	日本ビクター
㉔昭47	湧永薬品	東京重機工業
㉕昭48	大同製鋼	日本ビクター
㉖昭49	大同製鋼	東京重機工業

三景、斗志の引き分け
湧永、再三のリード実らず

▽決勝リーグ

三　景 14（5−8、9−9）14 湧永薬品
引き分け

○……三景は後半すばらしい動きで追いあげ、10分8−10から佐々木（オリンピック候補）が、鮮やかな身のこなしで3点をあげ逆転、

全日本総合選手権審判団

▽審判長　安藤純光▽副審判長　清水正▽審判員　狩野幸介、森恭一、光島磯雄、新村理文、大塚文雄、岡前義春、奥村方志、斉藤和夫、斉藤実、佐野和夫、鈴木四郎、山本孝男（ABC順）

得	【三景】		【湧永】	得
0	佐藤	GK	今井	0
0	小林	GK	福井	0
4	佐々木	FP	木野	6
1	加藤	FP	森	1
1	高梨	FP	高橋	2
3	内藤	FP	戸田	0
1	山村	FP	津川	3
4	川島	FP	穂積	2
0	高森	FP	藤井	0
0	大森	FP	田中	0
0	喜田	FP	大山	0
0	塩田	FP	松井	0
14	（0）	7MT	（0）	14

好試合となった。

湧永は、23分12−12のあと津川（オリンピック候補）がリバウンドをフォローして得点、さらに25分穂積−木野（いずれもオリンピック候補）のスクリーンプレーで14−12とした。しかし三景も26分FTから内藤がもぐりこんで13−14と望みをつなぎ、残り4分間は緊迫したムードに包まれた。

先行の湧永は、マイボールを巧みにつなぎ、勝利濃厚とみえたが残り50秒、ダメ押しをねらったシュートがはずれ、三景に最後の攻撃機を与えてしまった。

三景は、ここで驚くべき沈着さをみせてローリング、一瞬のスキをついて、山村と左サイド・川島がスカイプレーを仕掛け、川島のシュートは、とび出したGK福井

の足元をつきゴールイン、引き分けにもちこんだ。

終始押していた湧永は、敗れたように、ぼうぜんと立ちすくんでいたが、それだけ三景の善戦が光る試合だった。（杉山）

大同製鋼 23（13―6、10―8）14 本田技研鈴鹿

得	【本田】		【大同】	得
0	細野	GK	柳川兄	0
0	牧原	GK	倉谷	0
4	勝田	PF	藤中	4
2	佐藤	PF	中井	0
1	田上	PF	松原	3
3	新実	PF	花輪	8
1	柳	PF	柳川弟	4
0	長谷川	PF	加藤	2
3	宮川	PF	野田	2
0	矢野	PF	北村	0
0	新野	PF	守田	0
0	加藤	PF	中本	0

（審・山本 新村）

23（3）7MT（1）14

○……手の内を知りつくしている同士。最初の10分間は1―1だったが、そのあとは互いに得点機を逃さずポイント、見応えのあるせりあいだった。

しかし20分を過ぎて、本田ディフェンスに疲れがのぞき、大同は連続3本の7MTを集め、27分9―5と開き、有利となった。

後半、本田がどう反撃するか期待されたが、大同はGK柳川兄の好守で差を詰めさせず、攻めては柳川弟（オリンピック候補）の速攻で点、10分15―10と完全に主導権を握った。

ともに大型プレイヤーを主軸にスケールの大きい試合だったが、同じ鉈（なた）でも、大同には小刀の切れ味があり、本田は力まかせにすぎた。（光島磯雄）

三景 18（9―8、9―4）12 本田技研鈴鹿

得	【本田】		【三景】	得
0	細野	GK	佐藤	0
0	牧原	GK	小林	0
3	佐藤	FP	高梨	5
3	柳	FP	内藤	1
1	田上	FP	山村	2
0	勝田	FP	川島	2
3	新実	FP	佐々木	5
1	長谷川	FP	加藤	3
0	宮川	FP	喜田	0
0	新野	FP	大森	0
1	矢野	FP	高森	0
0	加藤	FP	塩田	0

（審・光島 狩野）

18（3）7MT（3）12

○……三景は完全に波にのったようだ。佐々木を軸に、左右、空間からゆさぶる多彩な攻めが、小気味よいほど決まった。

先制攻撃をうけた本田は、焦りも手伝い直進攻撃だけで変化に乏しく、前半4点のうちフィールドゴールは柳の2点だけ。

後半は、逆に本田の動きがよくなり新実を中心として23分12―15まで詰めたが、三景も終盤5分間、再びゆさぶりを利かせて点押し切った。

本田は型にはまると、滅法強みを示すが、相手のディフェンスが少し固まると攻撃の糸口がなかなかつかめない。来季への課題だ。（杉山）

男子決勝リーグ・粘る三景（攻撃）は得意のゆさぶりで湧永を苦しめ，上位への足がかりを固めた（シューター内藤）　撮影・山田真市

大同、前半の優位活かす

大同製鋼 16（6―7、10―5）12 湧永薬品

得	【湧永】		【大同】	得
0	福井	GK	柳川兄	0
0	今井	GK	倉谷	0
2	高橋	FP	藤中	7
0	森	FP	中井	3
3	木野	FP	加藤	0
3	穂積	FP	松原	1
2	津川	FP	花輪	2
2	戸田	FP	柳川弟	3
0	田中	FP	野田	0
0	大山	FP	北村	0
0	藤井	FP	守田	0
0	市原	FP	中本	0

16（2）7MT（1）12

○……湧永は前日の引き分け（三景戦）がよほど響いているのか、立ちあがり精彩を欠き、再三のノーマークを落としたばかりか大同の藤中（オリンピック候補）、松原（同）らの鋭い切りこみにポイントを奪われ、20分8―2と差がついた。

後半、大同は、働き手の藤中が5分間の退場（反則）を課せられ、湧永に反撃機が訪れたのだが、7MTを2回落とすなどあって1点もあげられなかった。

大同も、守りに力を注いで攻めこまず、17分間両チーム無得点という、男子にしてはめずらしい展開となり、大同は5点差をキープしたまま終盤を迎え、湧永の反撃を楽にかわせた。（荒川）

男子決勝リーグ

	大	三	湧	本	P	勝	分	負	得	失
①大同製	…	○	○	○	6	3	0	0	59	40
②三　景	●	…	△	○	3	1	1	1	46	46
③湧永薬	●	△	…	○	3	1	1	1	40	43
④本田技	●	●	●	…	0	0	0	3	39	55

女子決勝リーグ

	東	ビ	田	P	勝	分	負	得	失
①東京重	…	○	○	4	2	0	0	19	9
②ビクタ	●	…	○	2	1	0	1	15	18
③田村紡	●	●	…	0	0	0	2	14	21

女子4位決定リーグ

	立	大	日	P	勝	分	負	得	失
④立石電	…	○	○	4	2	0	0	30	13
⑤大崎電	●	…	○	2	1	0	1	15	18
⑥日体大	●	●	…	0	0	0	2	15	29

（Pはポイント）

3位に湧永、4位本田技研

湧永薬品 14（5―7、9―6）13 本田技研鈴鹿

得	【本田】		【湧永】	得
0	細野	GK	今井	0
0	牧原	GK	福井	0
1	田上	FP	戸田	0
5	佐藤	FP	木野	3
1	柳	FP	森	0
2	新実	FP	高橋	0
1	長谷川	FP	穂積	5
0	勝田	FP	津川	4
0	宮川	FP	田中	2
3	矢野	FP	大山	0
0	新野	FP	市原	0
0	加藤	FP	藤井	0

（審・狩野 光島）

14（0）7MT（0）13

○……湧永がベテラン木野が若い津川、穂積を巧く使って力とスピードにあふれた展開をみせれば、本田も田上、柳の両テクニシャンが佐藤、新実の右左アタッカーに好配球、正面からわたりあう豪放な試合になった。

前半は、本田が先制を狙って無理な態勢からのシュートが多く、湧永はGK福井（新人、中京大出）の好判断から好機をつかんでは得点した。

本田も途中で盛り返し、1点差の場面があったが、前半終了まぎ

わ湧永は穂積が強烈なシュートを決め引きはなした。

後半も同じようなペースで進んだが、速攻の確実さで、湧永が20分14−10と優位に立ち、本田は残り5分、猛反撃したが及ばなかった。

（大塚文雄）

善戦・三景、終盤力つく

大同製鋼 20（8−7、12−7）14 三景

得	【三景】		【大同】	得
0	佐藤	GK	柳川兄	0
0	小林	GK	倉谷	0
5	佐々木	FP	藤中	6
4	加藤	FP	中井	1
2	高梨	FP	花輪	3
1	内藤	FP	松原	2
1	川島	FP	柳川弟	3
1	山村	FP	加藤	1
0	喜田	FP	野田	4
0	高森	FP	北村	0
0	大森	FP	中本	0
0	塩田	FP	守田	0

（審・佐野、岡前）

20（2）7MT（0）14

後記

大国拓哉

○……大同を優勝へ就いたのは、二十八歳のベテラン野田のアクロバット・シュートだった。後半10分をすぎても大同は11−10と、目標の「3点のリード」（中浜監督）ができず、あせり気味。七月の実業団選手権（リーグ戦）で三景に18−20で敗れているため「試合前から三冠王よりも〝三景に勝ちたい〟という気持ちの方が強かった」（野田）という。その気持ちが緊張を呼び、各選手の動きをなんとなくぎこちなくしていた。

ベンチの中浜監督も「この時点で1点差では危ない」とにがりきっていた。と、その直後、野田が右サイドいっぱいから1m68の体を三景ゴール・エリア内に〝宇宙遊泳〟のように踊らすと、右ヒジをねじるようにして、ボールをゴールにたたきつけた。12−10、立大時代から国際舞台でヨーロッパ勢の目を見はらせた彼独特の倒れ込みシュート。ゴールをねらう角度といい、ボール離れといい抜群だ。16分過ぎには、この野田をしつこくマークする三景デフェンスから7mスローを奪い、その1分後には野田が再び右サイドからの倒れ込みシュートを成功させて4点差に広げた。

コーチを兼ねる野田の妙技は、試合の流れを大きく変える原動力になり、藤中、中井ら若い五輪候補に、本来の動きをよみがえらせた。そして二年連続二冠王の座へ――。

立ちあがりは、三景がリードした。堅さから動きのにぶい大同が、シュートミスを重ねるうちに、三景は加藤、佐々木、内藤がつぎつぎにゴールを決めて7分まで3−1と優位に立った。その後はノビノビとプレーする三景。「なんとか勝たなくては」とあせる大同。両チーム互に譲らず、前半は8−7。大同は「前半で3点を離なし安全圏に逃げる」という目標を果たせず、後半スタートから野田を投入した。それがみごと図に当ったわけで、大同の〝選手起用勝ち〟でもあった。（読売新聞運動部）

大同のベテラン野田（元全日本）の巧技は優勝に大きく貢献した。（対三景）　撮影・山田真市

日体大、日立栃木（前年3位）に逆転勝ち

女子

▽予選トーナメント1回戦

立石電機（実推・熊本）19（8−2、11−2）4 東女体大（学推・東京）

日体大（学推・東京）11（4−5、7−5）10 日立栃木（実推・栃木）

大崎電気（実推・埼玉）11（3−2、8−4）6 東花ク（開催地・東京）

東京重機（実推・東京）23（9−1、14−3）4 徳山高OG（全国社会人・山口）

＝以上Aコート

田村紡（実推・三重）12（7−2、5−3）5 大谷高（高体連推・大阪）

得	【大谷】		【田村】	得
0	中田	GK	久保	0
0	岡田	GK	山本	0
0	渡辺	FP	三毛	1
0	今井	FP	沖	0
0	横山	FP	横山	2
5	池渕	FP	和久井	3
0	松井	FP	金田	0
0	辰己	FP	松下	1
0	浜野	FP	鈴木	2
0	真喜志	FP	河田	3
		FP	林	0
		FP	笠	0

12（1）7MT（1）5

日本ビクター（日協推・茨城）23（12−3、11−4）7 東京学芸大（学推・東京）

＝以上Bコート

○……Aコート側のスタンドをわかせたのは日体×日立。

日立のすべり出しはよく前半20分4−1とリードしたが、日体も藤山の活躍で追いすがり、後半1分5−5と振り出しへ戻した。

しかし、その同点もつかのま、日立は富田川、山井らで3分から12分までの間に5ゴール、10−6と差をつけ、日体は振り切られたかにみえた。

ところが、日立はこのあと攻撃のリズムをくずし加点できなかったばかりか、荒いディフェンスで7MTをとられたり、反則退場者を出す不手際で日体の反撃を許した。

勢いにのると学生は強い。23分坂本で10−10とした日体は、24分小田が鮮やかに逆転ゴールを決めて、久々に有力実業団を降した。

○……クラブチームのハンデをこえて東花クが大崎電を苦しめた。

最後はスタミナが切れたが前半10分2−0から後半10分3−5まで持ちこたえた。

初東上の立石は、立ちあがりこそ固さがのぞいたが、しだいに持前の攻撃力を発揮、なんとか一矢をと狙う東女体大を突きはなした。

○……Bコートは実業団3強が順当勝ち。

注目の大谷高も前半15分までは2−2と互角にわたりあったが田村紡がこのあと強引に射ってくると、さすがに体力差が出た。

大器といわれる大谷のエース池渕（1m60）は、フットワークの巧さと、強シュートで7MT1本を含み全得点を一人でたたき出した。

重機×徳山OG、ビクター×学芸大はいずれもせりあいがつづいたのは最初の10分間、そのあとは一方的な経過だった。

重機、後半はじめに逆転　ビクターは大崎を一蹴

▽同2回戦（決勝リーグ進出チーム決定戦）

東京重機 10（5−6、5−3）9 立石電機山鹿

総勢8人で優勝を飾った東京重機。特に古佐原（2番）の活躍は大きな力だった。（対日本ビクター）　撮影・山田真市

○……「事実上の決勝」といわれた好カード。

10分3−0と好スタートを切った立石は、重機の反撃をうけながらも、蔵田（全日本）がすばらしい動きをみせて一人でかせぎまくり、前半を終えた。

ところが、後半になると立石の動きに変化がなくなり、このスキをついて重機は4分菊地(全日本)の鮮やかなミドルで同点のあと、折口で逆転、さらに、古佐原（全日本）がカンのいいプレーで2点を連取、10分9−6と優位を奪った。

立石はこのあと、蔵田が2点をあげ8−9。重機は17分菊地で10−8としたものの予断を許さず熱がこもった。

しかし、どうしたことか立石は攻撃がまったくまとまらない。動きが止まり、立ち往生するような場面さえあってタイムアップ寸前ようやく植原がゴールしたが、それまでだった。（杉山）

田村紡 11（6−2、5−2）4 日体大

○……日立を破り気をよくしている日体の試合ぶりに期待が集ったが、前半10分をすぎてから頼みのディフェンスが、田村の三毛−横山（全日本）にかきまわされ、攻撃面では、相手の早い帰陣を突きされず、ほとんど好機らしいものもないままに終った。（杉山）

日本ビクター 15（9−1、6−0）1 大崎電気

○……立ちあがり2点を失った大崎は4分席定が返し、もつれるかと思えたが、なんとこのゴールが最初にして最後。

あとは出足のよいビクターディフェンスにまったく動きをとめられてなすすべがなかった。（斉藤実）

4位戦は立石電機楽勝

▽4〜6位決定リーグ

大崎電機 10（3−3、7−4）7 日体大

立石電機山鹿 19（10−3、9−5）8 日体大

立石電機山鹿 10（3−2、7−3）5 大崎電気

先制攻撃実った東京重機

▽決勝リーグ

東京重機 10（7−4、3−1）5 田村紡

【重機】		得
GK	三紙	0
FP	古佐原	3
	市川	1
	菊地	1
	折口	3
	村上	1
	町田	1
	田中	0

【田村】		得
GK	久保	0
	山本	0
FP	沖	0
	三毛	0
	横山	0
	和久井	1
	金田	0
	松下	1
	鈴木	1
	河田	2
	林	0
	笠	0

10（2）7MT（2）5

○……重機は40秒に失った1点をすぐに返し、10分までに4−2とした。このあたり、勝ちみの遅かったこれまでと、だいぶパターンがちがう。持ち駒8人というスタミナを考えての先制だろう。

田村もよく追ったのだが、重機のトップ・古佐原の動きにまどわされて思い切ったプレーがなく、点差は詰まらなかった。

後半もいきなり重機がとばし、古佐原−折口のコンビで8分9−4。田村にとって返せぬ点差ではなかったが、シュートミスが多く結局、後半は10分の7MT（河田・全日本）だけ。ローリングでは重機を上廻りながら貧攻がたたった。（荒川）

田村紡、追いこめず

日本ビクター 11（6−4、5−5）9 田村紡

【田村】		得
GK	久保	0
	山本	0
FP	松下	4
	横山	3
	三毛	1
	和久井	1
	金田	0
	河田	0
	鈴木	0
	林	0
	笠	0
	沖	0

【日ビ】		得
GK	渡辺	0
	鈴木	0
FP	池田	3
	蓮見	0
	額賀	3
	高野	2
	加藤	3
	阿部	0
	斉藤	0
	滝	0
	川崎	0
	小島	0

11（4）7MT（0）9

○……田村は10分までに松下（全日本）、和久井、横山らで好調にとび出したが、ビクターの攻撃をもてあまし15分までに7MTを3本もとられ、せっかくのリードをふいにした。

後半、ビクターは1分7MT（池田）で6−4とはなしたが、田村も松下の連続得点で5分6−6のタイ、盛りあがった。

しかし、攻撃の幅があるビクタ

ーは、セットから額賀(全日本)、池田、加藤（全日本）とたたみかけ優位となり、その後の田村紡の反撃をかわして勝った。田村紡の3位が確定。

（斉藤和夫）

ビクター、後半の貧攻たたる

東京重機 9（7—4 / 2—0）4 日本ビクター

【重機】	得	【日ビ】	得
GK 三紙	0	GK 渡辺	0
FP 古佐原	4	鈴木	0
町田	0	FP 池田	0
村上	0	阿部	0
市川	2	高野	2
菊地	1	蓮見	1
折口	2	額賀	1
田中	0	加藤	0
		川崎	0
		滝	0
		小島	0
		穂積	0

（審・大塚、斉藤実）

9（1）7MT（0）4

後　記　　　大国　拓哉

○……重機は部員八人。一人でも負傷すると控え選手がいなくなる「八人での試合は、どうしても後半スタミナがなくなる。だから前半に勝負をかけた」（近藤監督）という。その〝勝負〟のため、選手はスタートからよく走った。1分、市川がビクターのパスをカットすると古佐原、折口のコンビによる速攻であっさり先行。3、6分にも動きの速いフォーメーションプレーから古佐原が連続シュートをきめて3—0とリード、ビクターを自己ペースに引きずり込んだ。

重機の中心選手、右佐原、市川折口は、1m50台のチビッ子トリオ。だが、コート狭しと動きまわる姿は1m65前後のビクター選手よりも大きく見えた。

その素早い動きに「速攻では決して負けない」（阿部主将）というビクターもしばしぼう然。10分すぎになってようやく戦術の変更を試み、ポストでゴール前をゆさぶろうとしたが、それも帰陣の早い、重機の守りにハネ返され、ペースを把めず、差をつめることができなかった。

後半、重機は少ない選手のスタミナを考えて守りを固め、スキがあれば攻め込むといった柔軟性のある作戦で、ビクターを〝ゼロに押え、ゆうゆう逃げ切った。

ビクターはベテラン池田をスタートから投入、必勝を期した所、重機の速攻の前に、ペースを乱されっぱなし、立ち直りのきっかけさえ握めないまま敗れた。

（読売新聞運動部）

少人数優勝新記録　女子・東京重機のメンバー（選手）は総勢8人、控えはつねに1人というギリギリのメンバー。あらゆる全国大会を通じ、最少人数優勝記録となった。

これまでの記録は、本誌調べによると、38年1月の第3回全日本選抜新潟大会、同2月の第3回全日本実業団選手権の両大会で女子優勝した愛知紡績（現在廃部）の9人。

額賀ら3選手全日本へ

日本協会は、12月14日の月例常務理事会で、新たに「昭和49年度女子ナショナルチーム」へ日本ビクターの額賀美恵子、高野晴子、渡辺久子（GK）各選手を追加することに決め、翌日の全日本総合選手権閉会式で発表した。

高野は復帰、額賀、渡辺は初の全日本入り。

なお、鳥居君子（ブラザー工業＝退社）、坂本陽子（日体大）両選手が、健康上の理由などで辞退を申し入れ、また日本ビクター勢とともに追加が予定された横山明子（田村紡）選手も辞退、いずれも認められた。

これで第6回世界女子選手権第1次候補選手を兼ねる「49年度女子ナショナル」は18名（GK4、FP14）となった。今後も全日本選手の追加は行われるが、次回の発表は5月頃「50年度ナショナル」としてのものとなろう。

◇

お詫び　本誌前号13頁・全日本総合選手権女子予選トーナメント組み合せの一部を誤って掲載しました。お詫びいたします。

ヴィクトリーセレモニー

（大同製鋼）　〝決勝〟の相手が三景に決まると、大同の各選手は、手をたたかんばかりに喜んだ。

2年連続タイトル独占を目標にスタートした最初の大会・全日本実業団（リーグ）で、三景に苦汁を呑まされ、得失点差で優勝したものの、誰の頭にも、この1敗がこびりついていたのである。

雪じょくの機会は、全日本タイトルをかけた舞台で、しかもテレビ放映という景物までつけて訪れた。

どちらかといえばムード派の多い大同勢が、燃えぬハズがない。試合は後半になって大同ペースしかし、ベンチは最後の最後まで緊張していた。

残り4分で2点のリードを引っくり返された6月の苦い思い出がつきまとっていたからだろうか。16—14から連続4点、なんとか起ちあがろうとする三景に、容しゃなく浴びせたKOパンチだった。

流れでる汗を拭こうともせず野田や藤中は「執念の勝利」を繰り返した。まるで初優勝のような風景。

「来年は始めから締めてかかりますよ」。加藤のベテランらしい一言が、今年の大同をしめくくった。

（東京重機）　7月、全日本実業団優勝後「これで一区切りついた」とばかり、ごっそり選手が退部した。

「べつに引きとめもしなかったが、数えてみたら8人しかいないが、今さらどうにもならないしネ」。好人物・近藤金博監督の面目躍如たるエピソード。

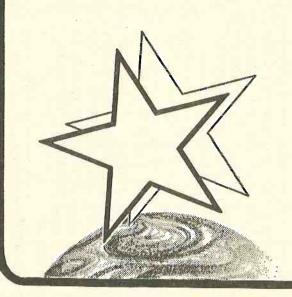
驚いた、というより絶望感におそわれたのは古佐原ら残った選手たちだ。「これではパス練習がやっと。私たちも辞めよう」。近藤監督に相談したら「ハンドボールは7人でできるんだ」。

それもそうだ、と思いなおして練習再開。茨城国体で2位となった。「なるほど、やればできるものだわ」

11月の東京選手権は、6人で戦ったこともあった。そしてこの大会。「8人なりの試合運びを覚えた。苦しさをのりこえたすばらしい選手たちですよ」と近藤監督は賞めあげる。

優勝メダルは15個。よけいなことだが余った7個はどうするのだろうと思って聞くと、「先生（近藤監督）が適当に配るでしょ」とのん気なもの。

そういえば、この8人から〝悲壮〟を感じたことはなかった。

勝利の女神はいいチームにほほえみを贈りたもうたものである。（S）

全日本総合に拾う

男子もついに「社会人時代」へ

▽……チャンピオンの早大（東京）が、当りをとりもどした本田技研鈴鹿（三重）の攻撃に押しこまれ4点の〝貯金〟をつかいはたし延長にもつれこむと、学連関係者が一人二人とコートサイドから姿を消した。

ベストフォアを決める4試合のうち、このカード以外はすべて社会人同士。長いあいだ主流を誇ってきた学生界にとって、この日の早大は、大げさに云えば、最後の砦だった。

▽……〝日本一〟の栄冠をかけた全日本総合選手権。すでに女子は昭和37年以降、社会人の上位独占がつづき、それも実業団の天下。

そのほかのチームが、その一角に食いこんだのは、41年の日体大44、45年の美和ク（東京）だけ。

それに引きかえ、男子は、社会人—実業団時代が来る々々といわれながら、38年7人制統一後も立教大、芝浦工大、関学、日体大、東京教大、中央大、法政大などがなんとかもちこたえて、上位戦線に名を連ねていた。

これは、他のスポーツからみれば、かなり、学生勢の粘りつきが長かった、といえ、それだけにまた関係者はもとよりファンも「学生チーム」への期待が強かったのである。

▽……早大が、本田の軍門に屈すると、今度は女子同よう実業団勢の〝独占〟成るかに興味が集まり、三景が大阪イーグルス（全日本教職員1位、過去全日本のベストフォア進出4回）を破ってそれを果した。

▽……実業団黄金期はいよいよ来たのだろうか。というより、学生の巻き返しはもう起らないだろうか、と問うたほうが、この場合、適切であろう。

学生界に接触のある10人に問いてみた。

巻き返しがなる…1人、巻き返したい…2人、巻き返して欲しい…2人、巻き返せない…5人。

つまりは、悲観的である。

▽……本田技研戦後、早大・三沢澄監督は「力にそんな開きはないと思う。学生勢の旗色が悪いのはメンタルな面で劣るからだ。60分間の集中力、緊張感の持続が、学生にはできない。

また、実業団の有力選手へのコンプレックスも、目に見えない〝差〟になっている」と云った。

この意見を肯定する人は多い。

▽……大同製鋼・野田清コーチ兼選手（立教大出）は、こう分析する。「例えばウチの場合、平常の練習は仕事が終ったあと多くても2時間。それだけに、その1分々々、シュートの1本々々を大事にする。それが集中力を生み、緊張の持続養成につながる。仮に学生が2時間練習したとしても、中身の濃さが違う」。となれば、学生ももう少し練習の方法を考えなおしたらどうなのか。

ところが、学生界の某監督に云わせれば「緊張感の持続、これは今の学生がいちばん苦手とするもの」なのだ。

▽……実業団は学生や高校生の優秀選手を毎年、計画的、重点的に集めてチーム造りするし、〝卒業〟もない。

学生チームは、高校選手の入学が難しくなる一方だし、初心者を育てるといっても4年間という限度がある。「これからは、インカレ（全日本学生選手権）至上の傾向が強まるだろう」というのは伏見和則全日本学連委員長（早大）だ。

今後、学生界の反抗があっても、それは散発的なものに終ろう。

社会人時代の担い手・実業団の消長が、日本ハンドボール界そのものをも大きく左右することは、いっそう間違いなさそうだ。

全日本総合第２日・本田技研（攻撃）は終盤地力を発揮，早大を破った。この１戦は球史の一つの節目になりそうだ。

全日本総合に拾う

反則騒ぎの「野田（むささび）シュート」

□……国内はもとより、本場ヨーロッパでも「曲芸師」の異名をとった名手・野田清選手（大同製鋼ミュンヘンオリンピック代表）のあの「むささびシュート」が、反則ではないか、と話題になっている。

ことのおこりは、全日本総合優勝をかけた三景戦後半、立てつづけにこのシュートを決め、大同2連勝の立役者となったプレーにある。

□……近年めざましく増えたハンドボールファンは、野田のアクロバティック・ショットが呼びこんだもの、と云われるほど、ゴールエリアの空間に身を躍らせ、宙ずりのような体勢から射つこのシュートは〝人気〟があった。この日も、彼がサイドでボールを受けるたびに歓声があったのだが、テレビカメラやスチールカメラは、冷めたい〝視線〟を送っていたのだ

□……当日テレビ中継（NHK総合）にインサートされたスローモーションヴィデオや、翌日の新聞に掲げられた写真を観たファンはボールが右手を離れる前に、左手がフロアに着いていた――つまりラインクロスだ、という印象を強くしたのである。

日本協会（事務局）にも、本誌にもかってない抗議と問い合せの電話がかかり、新聞社やテレビ局にも同様の電話があったそうだ。

これはちょっとした〝事件〟である。競技規則の解釈にもつながるし、「日本戦法」再検討の問題提起にもなるのだ。

本人は自身たっぷり

□……「手が先に着いていた?」そんなことはないですよ。指先からボールが離れていく感触、いくらレンズでも判らないでしょう」と当の野田選手は自信たっぷり。「手をついてからではバランスを崩して射てるものではありません」ともいう。

ただそのあとで気になる言葉を吐いた。「身体がごく僅か先へ落ちそうになる場合がある。でも、その時の左手は、相撲でいう〈かばい手〉とみなされるのではありませんか」

□……ハンドボールに〈かばい手〉が認められるのかどうか。

日本協会・安藤純光審判部長は「ボールが手を離れる前に、身体の一部がフロアに触れれば反則」ときっぱり否定。

ついでに、問題のプレーについて聞くと「肉眼とレンズではちがう。テレビカメラの置かれている位置や角度でニュアンスが変ってくる。新聞写真も、（ボールが）離れているようでもあり、離れる前のようでもあり、微妙な部分は不明確だ」

話題をまいた野田（大同）の攻撃（対三景戦，後半17分20秒）。マークするのは加藤。読売新聞社提供

レフェリーも確信

□……当日のレフェリー・佐野和夫、岡前義春（いずれも国際審判員）両氏も同意見。「写真やヴィデオを見せられて、さあどうだと云われても困る。ジャッジする時は確信をもっているのだから――」と〝肉眼尊重〟を訴える。

そう云えば、三年ほど前、イタリアのサッカーリーグ(プロ)がテレビ局にスローモーションヴィデオの採用（放映）を止めるよう要望したことがあった。

□……立教時代から野田のプレーを見つづけているNHK・鈴木文弥アナウンサーのみかたはこうだ「スローモーションヴィデオで見る限り微妙、審判の判断にまかせるほかはない。

ただ、二～三年前までの野田のプレーは、空間ですべて鮮やかに動作されていた。最近は、身体の跳ね具合が以前より低くなっている感じだ。

さすがの彼も、バネが劣えはじめているのではないか。」

三景側のある選手が「野田選手のプレーはOK、という先入観をレフェリーはもっていないか」といっていたことに符ちょうの合う話だ。

□……いずれにせよフロアに「落ちてたら反則」「触れていたら反則」という点ははっきりした。＝競技規則7の1

問題は、人の目で咄差に判断できないような時、どうするかだろう。

「スポーツの場合、疑わしきは罰せよが無難。今回のプレーは明きらかに反則」というのは高木肇さん（東京・読者）。

「あのプレーをダメにしたら、せっかくのムードがこわれる。際どいプレー、スリリングなプレーはセーフにすべきです」というのは桜井佳代子さん（東京・読者）。

最終的にはレフェリーの目

□……話はすこし、古くなるが、昨年4月来日したデンマークの代表的プレイヤー・フランドセン選手（スタジオン・IF）の云っていたことばを思い出した。

「日本のスカイプレーや、サイドからのとびこみシュートは日本ではOKかもしれないが、外国では反則にとられても仕方がない。どっちにしろクロスプレーはレフェリーの判断にしたがうのがスポーツさ」

ともあれ、一つのプレーで、これほど周囲が騒々しくなったのはめずらしいことである。

日本のハンドボールを世界の最高峰へ！

（協賛者御芳名・順不同）

高校王者、善戦実らず

▽……高校チャンピオンの出場はこの大会の〝名物〟として、すっかり定着した感じだが、今回は久々に男女両校が揃って出場、いっそう注目を集めた。

男・久留米工(福岡)は三景（東京)、女・大谷(大阪)は田村紡(三重）と1回戦の相手が有力実業団のため、健斗空しく第1日で姿を消したが、力いっぱいの試合ぶりで観客の声援に応えた。

久留米工の中島誠一主将は「前半7―13で終った時、僕らはスタミナに自信があるので、逆転するつもりでした」と残念そう。

だが「社会人はこまかい動きが巧いし鋭い。試合を終ったら急に疲れがでてきました」と最後は、高校生らしくすがすがしかった。

「いずれ主人も」と東花ク

▽……「主人はケガしないようにするんだよって云うのですけど、出るからには勝ちたいですわ」―おのろけまじりの斗志の弁は東花クの〝奥さん選手〟。

メンバー12人のうち、河村（旧姓山口)、荒井(堀江)、上原(継)大西(川島)、渡辺(槙尾)、益子（黒田）さんの6人が主婦。

熱心なファンならお気づきだろう、3～4年前まで関東学生で活躍した人たちだ。

畑中（48年度全日本）をはじめ毎シーズン何人かの俊鋭を加えており「今年はこの大会に出場するのを目標にしてきた」（荒井さん）というのだから偉い。

ご主人にハンドボール関係者が多く、ハズだけでそのうちチームがつくれそう。

「その時は〝東獣ク〟という名前がいいわよ」。「そうよ、そうよ」ということになっているとか、いないとか。

ボール投げ入れのサービス

▽……大会最終日(15日)、男女各試合が終ると両チームの選手が大会本部席からボールを受けとってスタンドに投げいれた。

何ごとがおきたのか、と一瞬とまどったお客さまも、それが主管者のプレゼントと判ると、大騒ぎで奪いあい。

これは、東京協会が、これまでは出場チームに分配したり下部組織に渡していた大会使用球をファンサービスとして〝活用〟したもの。

受けとったのは、ほとんどが少年ファンで、そのボールへ、お目当ての選手にサインをねだった。

東京協会では、これからも新企画をねって、ファンに喜んでもらおうといっている。

全日本総合選手権に拾う

なつかしや、福本登場

▽……大崎電気男子のゴールを久しぶりに福本弘選手が守った。

芝浦工大―大崎電気と名GKの名を欲しいままにし、世界選手権など国際経験も豊富。

44年の第16回全日本選抜（NHK杯）を最後に第一線を退き、いちぢ大崎電気の女子監督をつとめていたが、男子部の人手不足から一昨年の千葉国体ではFPとしてかり出されるなど、ハンドボールとの縁はいぜん深かった。

今季はGKが岩下一人になったため、〝専門職〟で復帰、この日に備えて2ケ月の特訓のあと5年ぶりでゴールを守った。

本人は「年寄りの冷や水」と照れたが、空中に身を躍らす独得のキーピングは健在、往時を知るファンをなつかしがらせた。

新生立石、来年に斗志

▽……東都初登場の立石電機（熊本）は、火災の不幸（48年11月）で部活動を止めた大洋デパートからの移籍組が主力。

報道関係者やファンも、その〝再起〟に関心をよせたが、事実上の決勝と目された東京重機(東京)戦に惜敗、栄光の復活は成らなかった。

選手たちは「去年の今ごろのことを思うと胸がつまります。それがまたハンドボールをつづけられるようになって……。それだけで嬉しいンです」と話していたが、選手とともに大洋から移った監督の井薫氏(全日本女子監督)は「大洋時代のベテランが抜け、若いメンバーとしてはいまがいちばん苦しい時。来年は必ずタイトルを手にします」ときっぱり優勝宣言した。

賞讃される三景の健斗

▽……大同×湧永が通り相場の男子優勝戦線へ三景が割りこみ、決勝リーグは新鮮ムード。

湧永戦は引き分けだったのだがそれ以後の日程を決めるためのトスで「勝者扱い」、テレビ中継のカードも大同×三景という〝初顔合せ〟が実現した。

三景の球歴は古い。江名、尾形竹村らの全日本級選手を軸に42年創立以来、つねにトップクラスに名を連ね、コートマナーのよさは定評がある。長崎、和歌山両国体など、これまで4回、全国的な大会に準優勝している。

▽……ところが、この大会だけは第23回(昭46)にベスト4入りしたのが最高という低調で、それだけに今回の進出には、関係者も、選手も嬉しさをかくせなかった。

勤務先(事業所)がバラバラのため、練習を始めるは夜8時すぎ、帰宅が深夜になる選手も多い。

「ウチの主武器はチームワークです」という喜田建男監督の背へ浴びせられた賞讃の拍手は、勝者・大同のそれに優るとも劣らなかった。

【カット写真＝ビッグゲームのあとファンが花形選手を取り囲む風景が目立つようになった。サインするのは藤中(大同製鋼)選手】

日韓高校再開、今夏は釜山(予定)で

日本体協と大韓体育会は昨年12月東京で、来年度以降の「日韓高校スポーツ交歓競技会」について協議を行ない今年は8月22日から3日間、釜山またはソウルでハンドボールなど9競技、一九七六年（昭51）は、日本で開催することに決めた。

この競技会は、昨夏釜山でハンドボールなど9競技が行なわれる予定で代表（男・久留米工、女・大谷）も決まり出発を待つばかりだったが直前になって朴韓国大統領そ撃事件が起きたため中止、来年度以降のありかたに注目が集っていたもの。

日本体協は当初、今年は日本、一九七六年は韓国で開催（＝本誌前号既報）の線を打ち出していた一九七七年以降については改めて検討される。

学生、社会人交流も存続
全日本学・実連で決める

日本協会は、日韓学生、同社会人（いずれも男女）の今後につき全日本学連、全日本実連に対し検討するよう要望していたが、両連盟は昨年11月に開いたそれぞれの全国理事会で協議の結果、当分の間、現行のまま交流をつづけていく意向にまとまった。

日本協会は、国際交流が多繁になったことや、アジアハンドボール界の拡充によって日韓両国だけの交流は意義がうすれた、として一昨年あたりから、縮少－解消を検討していた。

しかし、両連盟は、これまでの関係と実績から一気に解消へ持ちこむのは難しい、高校の交流も一応復活した（＝前掲）などから存続の線を決めた。両連盟内にも、日本協会同ようの意見が起こっていると伝えられており、学生、社会人の日韓交流はあと1～2年で新たな段階を迎えそうだ。

日本協会が両連盟の日韓交流をこれまでどおり〝共催〟するかどうかは、役員交替後に話し合われる予定。

なお、全日本実連は、延期中の第4回日韓男子社会人交流を5月日本で行なう計画をたてている。学生界は6月、日本側男女が遠征の番。

難しい？ア大会での実施
次大会は大幅に縮少

IOC（日本オリンピック委）筋からの情報によると、3年後の一九七八年イスラマバード（パキスタン）で開かれる第8回アジア競技大会は、これまでの大会規模よりかなり縮少されたものとなるようで、会期は10日間（11月15日～24日）、実施競技も15程度におさえられる。

AGF（アジア競技連盟）は昨年の評議員会でハンドボールを実施競技として規約に加えることを決めているが（＝本誌既報）、日本協会は、縮少ムードのイスラマバード大会でハンドボールが行なわれる可能性は、かなり薄くなったというみかたを強めている。

国際スポーツ大会（東京）中止

JOC（日本オリンピック委）は昨年11月の選手強化委で、ことし開催を計画していた「国際スポーツ大会、TOKYO75」の中止を決めた。

この大会は、JOC事業としてオリンピックの前年、外国から選手を招き、強化の一環にしようというもので各競技団体も関心を示していたが、資金面から検討のたびに計画が縮少され、ついには物価高、不況のあおりをうけて行き詰り、断念することになった。

ハンドボールは、当初13競技が予定された段階では加えられていたが、その後大会規模の縮少（注最終的には6競技にしぼられた）ではずされ、荒川理事長（日体協理事）を通じ〝復活〟の働きかけを要望しようという矢先だった。なお、この大会の中止にともない「NHK杯」大会の準備が必要となってきた。

「ハンドボールの町」造りに情熱

~市民ハンドボールの芽~

三田学園OB　口火になった少年スクール

部の創立25周年、よくあるお祝いごとだ。

だが、それを機会に〝ハンドボールの町〟を造ろうとなると、これは、並みの情熱だけではすまなくなってくる。

ハンドボールクレージイと呼ばれながら活動する兵庫県三田学園OB（桜陵ク）たちの〝奮戦〟を、その一人奥則夫氏（三田市新町）からのリポートをもとにお伝えしょう。

□……部が生まれて25年、150人ものOBを擁すると、さまざまな人間模様が描かれる。

だが、嬉しい共通項がある。ハンドボール、ハンドボールだ。「三田（さんた）のハンドボール」で結ばれた絆はまた、人生の支えでもあった。

この楽しさ、尊さを、なんとか自分たちの住んでる社会に役立たせないものだろうか。考えてみよう。

考えてみようが、やってみようへ代るまでに時間はかからなかった。

□……ちょうど同じ頃「近ごろの子供は、親のいうことも聞かないし、礼儀も知らない。社会性が乏しいまま大きくなっていいものだろうか」と悩むOBがいた。

「オレたちだって、いばれた子供時代、少年時代じゃないが、少くとも、ハンドボール部の規律があったからナ」

「オイ、それだ。そのハンドボールを活かすんだ！」

□……こうして「三田市少年ハンドボールスクール」が開校されたのは、1年前のことである。

市内に住む50人のOBが手わけして準備を進め校長には、自分たちの先生でもあった大原靖生さん（45才、日体大出、兵庫協会副会長）を推した。

情勢分析もせず、いきなりスタートさせたものの、生徒は集るだろうか。

この不安は消しとんだ。小学1年から中学1年までアットいう間に60人が申しこんできたのである。

□……驚いた。嬉しかった。世の中は、勉強々々と追いたてる教育ママばかりではなかったのだ。

スポーツを、ハンドボールをこの子に教えてやって欲しい、とこんなに多くの人が、我が子をあずけてくれたのである。

毎週日曜日、午前7時からの2時間、OBたちはやり甲斐のある〝仕事〟を受けもつことになった。

□……〝授業〟が進むにつれ、子供たちはめきめき腕をあげた。

倒れこみシュートを射てる子もでてきた。

こうなると指導にも熱が入る。9月、東ドイツナショナルを迎えた神戸大会の前座試合に、2チームの出場が決まった時は、思わずとびあがった。

子供たちはもちろん、我々もだ。

□……スクールの地道な成果は、新たな情熱への火つけ役にもなった。

三田市を、「ハンドボールの町」にしよう、という夢だ。

成年の、婦人の、おとしよりのハンドボール活動を、三田学園OB会25周年の記念事業にしたら――

一、二年前には、考えもつかなかった大きな話が、スラスラと言葉になってでた。

子供たちの元気な顔、はずんだ声が大きなはげましになったことはいうまでもない。

□……てはじめに、それぞれ自分の生活する分野でチーム造りをすることになった。

市と市周辺の公務員による「三公会」ができた。

商店主、従業員による「商友会」が生まれた。ユニホームのマークは「￥」だ。

OBたちは、いっさいの世話役であり、しかも主力選手。現役時代をしのぐほどハンドボール、ハンドボールに埋まった毎日である。

□……いったん燃えた火は、さらに大きな炎となった。

昨秋11月、三田市ハンドボール協会の発会にこぎつけたのである。

三田学園から関学へ進み、FBとして鳴らした藤原治さんを理事長に、顔を揃えた協会役員は、狂会役員といったほうがよいだろう。

協会の目標は、全日本だ、優勝だなど、というものではない。

ひたすら、この地にハンドボールの種をまき、ハンドボールの根をおろしたいのである。

ささやかな希望ではあるが、それが、一朝にして成らないことを誰もが知っている。

だが、どれもこれもOB会が自発的に話をまとめ、自分たちでやりはじめたことだ。

大原さんは、久しぶりに師の顔にもどって、我々へこう申し伝えたものである――「遊び半分ではできないことばかりだ。それだけに各人に責任をもってもらうぞ。一、二年で投げ出しては、それこそもの笑いだ」

（了）

実業団男子トーナメント

日新、二和も楽観許さず

充実の中堅チーム並ぶ

今年度最後の全国大会・昭和49年度（第6回）全国男子実業団トーナメントは2月9日から12日までの4日間広島県呉市体育館（主会場）に32チームが参加して開かれる。

上位2チームには、今年5月の日本実業団リーグ（第16回全日本男子実業団選手権）出場権が与えられ、躍進を目指すチームにとってはゆるがせにできぬ大会。激戦が期待できよう。（編集部）

リーグ目指す上位チーム

例年どおり、リーグ出場の6強（大同製鋼、湧永薬品、三景、本田技研鈴鹿、大崎電気、三菱レイヨン大竹）は顔を見せない。

6年前、全日本実連がリーグとトーナメントに分けた時、後者は社内の同好会的チームのために、ということであった。

リーグ・グループが、チャンピオンスポーツなら、トーナメント勢は、楽しみながらハンドボールに親しむ企業チームの集い、というわけだった。

それがどうだろう。今や、上位リーグへの登竜門として受けとめるチームが、がぜん多くなった。実業団球界そのものの拡充を物語るものだ。

もちろん、同好会的チームも健在。この大会に出るのを、唯一の楽しみに活動をつづけているところもかなりの数。

各チームの攻守充実

こうした二つの層に分けられる参加各チームだが、焦点はやはり優勝争い。

前評判が高いのは前回（48年6月）1位の日新製鋼呉(広島)と二和家具(岐阜)だが、絶対の力があるか、といえばそうでもなさそう。

両チームが不安定なのではなく他チームの攻守が、かなりまとまってきているからだ。

特に、前回、日新に惜敗しているセントラル自動車(神奈川)、日鉄名古屋、トヨタ車体（いずれも愛知）、大山商会(大阪第4回1位)らの力は相当なものだし、1、2回戦で星をつぶし合う丸善石油下津(和歌山)、三陽商会(東京)、武田薬品光(山口)、神戸製鋼（兵庫）の4者は、そのまま準決勝を争ってもおかしくはないと云われるほど。

このほか、巻き返しを狙う住友化学菊本(愛媛)、進境を伝えられる三井石油化学千葉、金沢市役所(石川)、日本発条横浜（神奈川）自衛隊のビッグスリー・鹿屋（鹿児島)、下総(千葉)、勝田(茨城)らが強そう。

優勝候補の最右翼にあげられている日新は、下茂、吹上、松木、村川らの攻撃力が秀れ、県内ではリーグ6位の三菱レイヨン大竹と互角の成績を残している。

初優勝を狙う二和は、足立―長谷川のコンビを要に、意欲的な強化が実を結びつつある。

三陽は、元全日本の近森が、大崎電気から移って、FP兼任でチーム造りに情勢を燃やしている。

下総には、参加選手中唯一人のオリンピック候補・平野が居る。

健在のベテラン選手

異色チームとしては、女子の活躍に刺激をうけ同好の士を集めて編成された東京重機(東京)、東西の学生界で活躍したOBが元気な顔を並べる大成プレハブや安田生命などがあげられる。

安田は、毎年、大会地を集合場所に、各地の支店、営業所からメンバーが馳せ参じる。

ベテランでは、自衛隊下総から田村（40才、下松工出）が監督兼選手で登録されているほか、住化菊本の長崎、落海、加藤（監督兼任）が30才を越して、いぜんトリオで頑張っているのは嬉しい。

日新製鋼呉(広島)
日本鋼管京浜(神奈川)
境港市役所(鳥取)
大阪ガス(大阪)
日本発条広島(広島)
大成プレハブ(東京)
自衛隊勝田(茨城)
トヨタ車体(愛知)
川崎重工(兵庫)
丸善石油松山(愛媛)
三井石油化学千葉(千葉)
大山商会(大阪)
自衛隊呉(広島)
日本耐酸壜(岐阜)
東京重機(東京)
新日鉄名古屋(愛知)
二和家具(岐阜)
自衛隊下総(千葉)
金沢市役所(石川)
日本発条横浜(神奈川)
丸善石油下津(和歌山)
三陽商会(東京)
武田薬品光(山口)
神戸製鋼(兵庫)
住友化学菊本(愛媛)
自衛隊鹿屋(鹿児島)
石川島播磨呉(広島)
鐘ケ淵化学(兵庫)
安田生命(東京)
日本鋼管福山(広島)
三井石油化学山口(山口)
セントラル自動車(神奈川)

「45秒ルール」についての考察

〜西ドイツ「週刊ハンドボール」から〜

IHF技術委員（ルーマニア）　イオン・クンスト

訳・光島磯雄（日本協会国際担当常務理事）

全体の50%は30秒以内でシュートしている

スペイン、ドイツ、ユーゴスラビヤ、ソビエトなどでは、現在ハンドボールゲーム中の「攻撃時間の制限」についての規則を導入することを検討しはじめている。その目指すところは、この規則の実施によってハンドボールの魅力とダイナミックさと声価をより一層向上させるがためである。

ソビエト協会ではすでに国内の選手権大会の段階で、攻撃側のボール保持時間を45秒に制限するという新規則を実行に移している。

この問題は我々にとっても以前から大きな関心事であったことで同時に大きな現実的な性格を持つものである。IHF組織下にあるソビエト協会は一九七四年のIHF総会（イタリア）に攻撃時間を45秒に制限することを提案した。これにつづいてユーゴスラビヤ協会からはこの制限を45秒でなく30秒とすることと、特定又は特殊な状態たとえば後半の25分以後は退場処分を科することまで要求してきたのである。

▽研究の目的　我々は、この時間的制限を加えるというルールを設定することについて、これがいかなる状態をもたらすか、予想される問題点はどうかについて結論を得るのに必要なゲーム中の正味の攻撃時間（ボール保持時間）を記録し、資料を収集することに目標をおいた。

▽実施方法　我々は以下のような調査方法を適用した。

○ゲームの進行状態の自由な観察

○達成目標である資料を数学的統計的面から収集することと試合内容の記録収集。

これらは国内選手権大会の段階で一九七三年秋から一九七四年はじめまでの間、ルーマニアで開催された国際試合と同じように、ブカレスト体育スポーツ研究所ハンドボール講座の研究力とハンドボールを専攻する学生達の協力による多くの種類に分類された資料をもとにして観察、記録、整理されたものである。

一九七三年のユーゴスラビヤでの女子世界選手権大会の記録はブルガリヤのソフィア体育学校講師キルスティフ氏によって採集された。

観察と記録採集はチームの種類（男女別、大会）別に応じて全試合に実施された。

○男子世界選手権の42試合の中の16チーム（全部）。

○一九七三年の女子世界選手権8試合の中の7チーム。

○一九七三年秋ルーマニアのカルパティアカップ大会に参加した世界の男女ベスト5チームの試合。

○ルーマニアの最高レベルの男女チームの17試合。

○ルーマニアの国内選手権大会少年の部の8試合。

以上合計99試合が観察及び記録採集の対象となった。

▽観察に要した基本的事項　ルーマニアで開催された試合を観察し記録する任務にあたったすべての人々は、記録方法の理解に食違いが生じないようお互いの統一見解と、記録内容の多様性を示すいろいろな形態を知りつくすように総合的かつ共通的指示があたえられた。

東ドイツでの観察員の依頼は東ドイツ協会科学センターからの通達を基準として実施された。

N・キルスティフ氏はいくつかの記録方法を適用したが攻撃時間とその回数については別個に念入りに記録する方針をとった。

▽記録採集の実施　試合の記録採集と観察は2〜3人からなるグループで実施された。これは次から次へと発生して来る攻撃の回数とその継続時間を記録するためである。試合の進行過程では、他の重要な出来事（例えば、諸反則、退場処分、7米スロー、コーナースロー、スローイン、レフリー責任の一時的中断、消極的受身ゲーム得点）についても記録された。

この結果記録採集方法の特性は科学的で精密であると認めることが出来る。

我々は声を大にして、攻撃時間とは正に掛値なしの攻撃時間を意味するのだと強調したい。すべての記録は45秒ルールの設定を考慮すべきだとは決して示唆していないのである。

▽資料の整理方法　実施採集された諸記録は一定の型式の表に移された後でわかりやすい統計に修正された。この統計図表は攻撃中のボール保持時間と他に派生する重要出来事（前述）を0秒から120秒にわたって各15秒ごとの間隔に小

区分し、攻撃の120秒以上にわたるものを含め忠実に記録されているそこで我々は根本的に次に記すことがらを把握するため記録資料を入念に吟味した。

(a)攻撃中のボール保持時間の45秒までにシュートが行なわれるものと、それに反して45秒以上かかるものとの関係。

(b)45秒以内と45秒以上の間に生じる重要事（前述）の発生回数。

(c)(a)に関してこの間に種々引例されたような派生出来事がどのように影響をおよぼしたか

攻撃の全回数と各秒おきの間隔での派生出来事は各チームの種類（男女別、大会別）に応じて分類された。さらに45秒以内と45秒以上の攻撃全回数もつかめた。これらは再度各種の観察分野に細分された。

統計作成上の理由により、攻撃時間の算術的平均値は、45秒間隔というたてまえから全分野（男女別、大会別）にわたって算出された。同じ理由により、二等分状態の数値と算術的平均値の偏差と同様のものが算出された。

▽データの解釈　一九七四年の男子世界選手権における42試合では攻撃総数三八八七回でその74・8%の二九〇八回が45秒以内で終っており、九七九回の攻撃即ち25・2%が45秒よりも長びいたことが判明している。

ユーゴでの女子世界選手権では攻撃総数五六五回中四八九回即ち86・55%は45秒以内にシュートされており、七六回13・45%が45秒以上にわたっている。

カルパティアカップ大会での男子のゲームでははしなくも男子世界選手権の際生じた状況を如実に再現した。45秒までに終った攻撃は全体の79・6%であり、45秒を上まわるものは20・4%であった

ルーマニアにおける国内選手権大会25試合の一八九三回の攻撃では一四四〇四回（76%）は45秒以内、四五三回（24%）は45秒以上である。観察対衆となった99試合の攻撃総数は八三三九回と記録されている。この内訳は、六四〇七回（77%）が45秒以内で、残りの一九三二回（23%）が45秒以上である。

以上のようにあげて来た明白な実例から攻撃のおもな傾向を各ゲームの特性に応じて次のように解釈してみよう。

およそ攻撃の76%は45秒までにシュートされている。45秒間のはじめからおわりまでの細部にわたっての検討では、攻撃の最低50%はチームの特性に関係なく最大30秒以内にプレーされていることが理解出来る。だから我々はすべてのゲーム内容が示す全般的傾向を攻撃又は反撃などと問題にするような末節にとらわれることなく、攻撃をなるべく短時間に終らせることに力点をおく義務があると考える。

我々は攻撃時間の制限を目的とするルールの実施を有害無益なものと考えると同時に、とりわけ現在のような近代ハンドボールの発展傾向を努力の目標として一回の攻撃又は反撃を出来るだけすみやかに終らせるよう努力を惜しむものではない。この45秒ルールの設定はハンドボール競技の最も重要な特性を制限することをも含んでいる。このような方向に向うことはハンドボールプレーの性格に照らして権威あるものとは言えない。

すでにのべたようなことがらはブルガリアや東ドイツの専問家達の協同によりルーマニアで集大成されたものをもととして制作されたものであり、一九七三年のブルガリアでのIHF審判研修会や一九七四年のキエフでの研修会で行なわれた一連のデモンストレーションゲームでも観察検討された。これらのゲームの際にも、この45秒ルールの設定は適当ではないということが明らかとなったのである。これらの試合には、私以外のIHFのRSK（規則審判委）とTMK（技術委）の執行委員達が列席した。彼らはそこで各国の審判関係者にいろいろと助言をあたえた。45秒ルールの検討のため記録採集の対象となった全試合は、このルールが目指す目標に到達することは出来ないことを示したのである。

以上引用された事例や、観察されたゲームからみられた理由から45秒ルールの実施には次にあげるような問題点が予想される。

○競技そのものの構造性格は、技術的にも戦術的にも大きな影響をこうむることになろう
○時間経過の管理面や、報告書作成の技術的問題に関連して不必要な混乱を招く。
○レフリーを補助する人数が多くなる。
○競技運営に関する経費がかさむ。
○ハンドボール競技の数的量的発展が阻害される。　（了）

◇**I・クンスト氏**はIHFきっての理論家、技術畑のリーダー。前ルーマニアナショナルのコーチで昭35来日している。

ラフプレーなどに「対策」を

ラフプレー、ストーリングについての議論が盛んなようですが、私見を述べさせていただきます。

〔ラフプレーの解消に〕チーム、個人の反則数に制限を定め、その数を越えたら即7MTまたは退場を課せるというのはどうでしょう。そうすれば、勝つために反則が減少すると思います。

〔ストーリングの解消に〕前半及び試合終了前の5分程度を一線として、それ以後は、チームのボールキープ時間を50秒以内に限定、それを過ぎたら相手ボールとする方法はどうですか?。ソビエトがIHF審判講習会で言っていた45秒ルールを少しアレンジしてみたものです。

以上、無茶な意見かもしれませんが、やはりラフプレー、ストーリング解消のためには個人々々のスポーツマンとしての自覚と指導者の適切な指導が欠かせないと思います。しかし、勝利を追求しすぎると、ついこうした面がおろそかになるものです。私の二つの提案を皆さんも考えてもらいたいと思います。

【紙上匿名希望・中学生】

投書欄　明日への提言

「明日への提言」に投稿を歓迎します。600字以内、タテ書きのこと（原稿はお返ししません）。締切日も特に設けません。紙上匿名可。

☆★☆★☆★☆ 海外トピックス

杉山茂
（NHK運動部）

ユーゴ優勝、ポーランド健斗
～ワールド・カップ～

本場のシーズンは佳境に入り、各地で大小さまざまな国際トーナメントが開かれている。今月は大会の結果を中心にお伝えしておこう。ファンの関心を呼んだのはスウェーデン協会による「第2回ワールドカップ」（昨年11月21～26日）

ふつう、このタイトルは、文字どおり世界選手権をかける大会専用のハズだが、IHF（国際ハンドボール連盟）がクレームをつけたという話は聞いていない。

大会はストックホルムなど14都市を会場に8ケ国が参加、4ケ国づつ2組の予選リーグのあと、各組同位者によって順位を争った。

各試合とも五千をこすファンを前に、激戦をくりひろげたがA組でポーランド（世界4位）がルーマニア（1位）らをおさえる波乱をおこし、わかせた。

決勝はヨテボルグの大体育館スカンディナビウムに九千の観衆を集め、ポーランド×ユーゴ(3位)の顔合せで行われ、ユーゴが試合終了まぎわ、貴重な決勝点をあげ優勝を飾った。

▽予選リーグA組
ルーマニア 13(分)13 ハンガリー
ポーランド 24―16 ソビエト
ソビエト 18―17 ルーマニア
ポーランド 16―11 ハンガリー
ルーマニア 19―18 ポーランド
ソビエト 28―19 ハンガリー
【順位】①ポーランド2勝1敗（得失点差12）②ソビエト2勝1敗（2）③ルーマニア④ハンガリー

▽同B組
東ドイツ 18―15 スウェーデン
ユーゴ 23―22 チェコ
東ドイツ 18―12 チェコ
ユーゴ 18―15 スウェーデン
東ドイツ 17―10 ユーゴ
チェコ 16―15 スウェーデン
【順位】①ユーゴ②東ドイツ③チェコ④スウェーデン

▽7・8位決定戦
ハンガリー 22（10―10, 12―11）21 スウェーデン

▽5・6位決定戦
ルーマニア 19（7―10, 12―8）18 チェコ

▽3・4位決定戦
東ドイツ 23（14―9, 9―10）19 ソビエト

▽決勝
ユーゴ 17（10―9, 7―7）16 ポーランド

得	【ユーゴ】		【ポーランド】	得
0	アルスラナギッチ	GK	スジムツァク	0
0	ニムス	GK	ロスミアレク	0
1	ボヨビッチ	FP	ブロゾウスキー	1
0	ブロダニッチ	FP	クレムペル	5
2	レジェノビッチ	FP	ディボル	3
0	パビセビッチ	FP	メルセル	3
2	ホルバト	FP	ソコロウスキー	0
4	ポクラヤク	FP	グミレク	2
1	ミルヤク	FP	カルジンスキー	2
2	ティムコ	FP	ヤクボウスキー	0
1	セルダルギッチ	FP	マディヤク	0
4	クリボカピッチ	FP	パナス	0
17				16

東ドイツ、強味示す

恒例のクリスマストーナメント東ドイツ国際大会は、久々にソビエトと北欧2国が参加するユニークな顔ぶれで、昨年12月21日から5日間デソーなど3都市を転戦して行われた。

地元東ドイツはソビエトと大激戦の末引き分けた以外はガンショウ、ケーラートらの活躍で全勝首位となった。

世界1位のルーマニアは名GKペヌが欠場したのが響いた。ノルウェーがソビエトを破っているのは注目されよう。

東ドイツ 22―14 ノルウェー
ルーマニア 16―14 デンマーク
ソビエト 32―21 チェコ新人
東ドイツ 21―17 チェコ新人
ソビエト 18―15 デンマーク
ルーマニア 18―16 ノルウェー
東ドイツ 23（13―13, 10―10）23 ソビエト
ルーマニア 23―20 チェコ新人
デンマーク 16―13 ノルウェー
東ドイツ 16―15 デンマーク
ルーマニア 20（9―10, 11―10）20 ソビエト
ノルウェー 17―16 チェコ新人
デンマーク 23―20 チェコ新人
ノルウェー 19―18 ソビエト
東ドイツ 26（13―14, 13―5）19 ルーマニア
【順位】①東ドイツ4勝1分②ルーマニア3勝1分1敗③ソビエト2勝2分1敗④デンマーク・ノルウェー⑥チェコ新人

スイス、オランダら制す
～オランダ国際～

オランダ国際トーナメントは、ヨーロッパのB、Cクラス4ケ国が参加して1月1日から3日間にわたってアムステルダムで行われスイスがバランスのとれた攻守を示し優勝。

オランダ 24―19 ルクセンブルグ
スイス 24―12 ベルギー
スイス 14―4 ルクセンブルグ
オランダ 22―13 ベルギー
ベルギー 16―11 ルクセンブルグ
スイス 16―11 オランダ
【順位】①スイス②オランダ③ベルギー④ルクセンブルグ

ソビエト、今季初の優勝
～リトアニア国際～

リトアニア（ソビエト）国際トーナメントは、昨年12月、ビルニスに6チームが参加して行われ、ソビエトが、今シーズン初の優勝を遂げた。好調のハンガリーが2位。

▽予選リーグA組
ソビエト 29―21 リトアニア
リトアニア 24(分)24 チェコ
ソビエト 29―20 チェコ

▽同B組
ハンガリー 17―16 ソビエトB
ルーマニア 15―14 ソビエトB
ハンガリー 13(分)13 ルーマニア

▽3位決定戦
ルーマニア 29―20 リトアニア

▽決勝
ソビエト 20（11―10, 9―8）18 ハンガリー

ルーマニア、ユーゴ抑える
～女子カルパティア杯～

女子の動きも活溌である。第15回女子カルパティアマウンテンカップは11月25日から5日間プロエスティ（ルーマニア）に、5ケ国6チームが集り熱戦をくりひろげた。

世界1位のユーゴ、同2位のルーマニア、同3位のソビエトそれ

に強豪東ドイツが顔を揃える豪華版。

女王ユーゴが出足でつきづき優勝はルーマニア、東ドイツの争いとなったが、ルーマニアが勝ち、地元ファンの声援に応えた。

東ドイツ 12（6－7、6－5）12 ユーゴ
ルーマニア 23（12－8、11－7）15 ルーマニアB
ソビエト 15（6－8、9－7）15 ポーランド
東ドイツ 12（4－3、8－8）11 ソビエト
ユーゴ 12（5－7、7－4）11 ルーマニアB
ルーマニア 21（9－10、12－7）17 ポーランド
ルーマニア 13（6－6、7－6）12 東ドイツ
ルーマニアB 15（8－1、7－10）11 ポーランド
ソビエト 17（10－3、7－10）13 ユーゴ
東ドイツ 17（9－6、8－6）12 ルーマニア
ルーマニア 21（11－9、10－9）18 ソビエト
ユーゴ 22（10－7、12－5）12 ポーランド
東ドイツ 21（13－9、8－6）15 ポーランド
ルーマニア 13（8－6、5－7）13 ユーゴ
ソビエト 12（1－6、11－3）9 ルーマニアB

【順位】①ルーマニア4勝1分②東ドイツ3勝1分1敗③ユーゴ2勝2分1敗④ソビエト⑤ルーマニアB⑥ポーランド

ポーランド突っ走る
～スラスク女子杯～

ポーランド恒例のスラスクカップが12月9日から15日まで7ケ国8チームが参加して行われた。

女王・ユーゴは姿を見せなかったがルーマニア、ハンガリー、東ドイツ、地元ポーランドらが期待にたがわぬ熱戦を展開、予選リーグでルーマニアをおさえたポーランドと、東ドイツ、チェコに連勝したハンガリーが優勝を争い、ポーランドがジレヴィックの大活躍で逆転勝ちした。

▽予選リーグA組
ポーランド 14－13 西ドイツ
ルーマニア 18－11 デンマーク
ルーマニア 14－9 西ドイツ
ポーランド 19－8 デンマーク
西ドイツ 10－7 デンマーク
ポーランド 14－11 ルーマニア

▽同B組
ハンガリー 15－14 東ドイツ
チェコ 12－11 ポーランドE
ハンガリー 15－8 ポーランドB
東ドイツ 20－8 チェコ
東ドイツ 13－10 ポーランドE
ハンガリー 11－10 チェコ

▽7位決定戦
デンマーク 14－12 ポーランドB

▽5位決定戦
チェコ 21－12 西ドイツ

▽3位決定戦
東ドイツ 18（9－5、9－8）13 ルーマニア

▽決勝
ポーランド 14（6－8、8－4）12 ハンガリー

ユーゴ、地元では勝つ
～ユーゴ女子国際～

女子の4ケ国対抗・ユーゴ国際は11月15日から3日間ザグレブで行われ、世界チャンピオンのユーゴが地元の利もあってチェコ以下をおさえ優勝した。デンマークの健斗が目立つ。

デンマーク 12－8 西ドイツ
ユーゴ 15－13 チェコ
ユーゴ 21－14 西ドイツ
チェコ 11－9 デンマーク
チェコ 17－10 西ドイツ
ユーゴ 11－10 デンマーク

【順位】①ユーゴ②チェコ③デンマーク④西ドイツ

ケガにご用心 西ドイツのある保険会社がこのほど発表したスポーツ傷害の統計によると、いちばん件数の多いのはサッカーで全体の59・9％、つづいてハンドボールが10・8％。本場のプレーの激しさを示すともいえるが、日本のスポーツ安全協会（保険）の査定ではいちばん軽い「Cランク」になっており、再点検が必要？

ヨーロッパカップ

◇男子　旧年内にベストエイトが決まり、2回戦注目のステアウァブカレスト（ルーマニア）×MAIモスクワ（ソビエト）は第1戦24－22、第2戦21－20でブカレストのストレート勝ち、3月来日のバノンマノス・グラノラース（スペイン）は優勝候補のスパルタカス・ブダペスト（ハンガリー）に18－27、22－23で敗れた。このほか、連覇を狙うVfL・グンメルスバッハ（西ドイツ）や日本遠征を希望しているスコダ・ピルゼン（チェコ）、ボラク・バンヤルカ（ユーゴ）、ASKV・フランクフルト（東ドイツ）らの東欧勢が準々決勝～1月17～31日～に勝ちあがっている。

◇女子　本命スパルタク・キエフ（ソビエト）は順当にベストエイトへ進出したが、対抗と目されたTI・ゴットワルドウ（チェコ）が、FIF・コペンハーゲン（デンマーク）に第1戦を10－13で落とし、第2戦16－14と迫りながら合計点（27－26）で及ばず敗れる波乱があり、ロコモティブ・ザグレブ（ユーゴ）も、ランドハウス・ウィーン（オーストリア）に、第1戦22－9のあと、第2戦14－14と食い下られ話題をまいた。

西側期待のバイエルン・リバクーゼン（西ドイツ）はスネム・ソフィア（ブルガリア）に9－7、11－9で涙をのみ、注目のハポエル・ラアマナ（イスラエル）はIEFS・ブカレスト（ルーマニア）に4－26、5－21と一蹴された。

賑やかになる女子学生界

南山(東海)、成蹊女(関西)岡山県立女短大（中四国）らの登場で、久しぶりに賑やかな話題をまいた昨シーズンの女子学生界だが、つづいて今年も数校のデビューが噂されている。

出(で)を待つ顔ぶれのなかから東西の異色2校にスポットをあててみた。

学習院女短大 部を作って満2年になる。これまでは都のクラブリーグに所属。『他大学は、体育の専門家を目指す選手ばかりでしょう。とても同じ場では……』（荒井啓子監督、東女体大出、旧姓堀江）と〃楽しみ第一〃をモットーにしてきた。

部員にハンドボール経験者は少ない、というよりいないといったほうがいい。いつもボールの説明から指導をはじめなければならない。

どうにか形がつき、欲がでてきたところで卒業。2年間練習ばかりで終ってしまった〃選手〃もいる、という。

山中湖や鯵ケ浦での合宿には青山学院(東京)と千葉大に誘いをかけ合同。この時の種まきが、各校で芽をふき始めた。

既存のリーグとは〃別立て〃を条件に、学連入りを考えはじめている。

そうなれば、関東でもまだまだチームは増えそうだ。

「その意味で、ウチはパイオニアですわ」と荒井さんは胸をはった。

＜杉山＞

京都女大 学習院同よう、ことして部創設3年目になる。

昨秋から関西学連へ加わる予定だったが、ちょっとした手違いで延びた。

バスケットボールやソフトボール経験者が中心となり同好会がまずスタート。

顧問に迎えた種村紀代子教官にハンドボールキャリアがあったので、順調にチーム力を貯えてきた。

部員の平均身長が160cmと〃大型〃なのも魅力だ。

関西女子学生は、甲子園女短大にしても、武庫川女にしても成蹊女にしても参加と同時にかなりの力を示すのが特徴だが、このぶんだと京都女大にも期待がかけられる。

種村さんも『リーグのお荷物にならぬよう、できることなら新風を吹きこんだ、といわれるような成績をあげたい。春までに、選手一人一人のレベルアップをはかります』と意欲をもやしている。

＜小西＞

名城Bと中京女大が勝つ

第15回愛知学生選手権は昨年12月2日から7日までの6日間名古屋・愛知県体育館を主会場に男子10校19チーム、女子4校7チームが参加してトーナメントで争われ、男子は名城B、女子は中京女大がそれぞれ優勝した。

▽男子1回戦（3試合）

名工大B 15―9 愛大名古屋

南山B 18―7 中部工大

中京B 19―12 名工大

▽同2回戦

愛大豊橋 21―7 名古屋学院

南山 15―7 名大B

中京C 20―12 愛知教大B

名大 12―5 愛大豊橋B

愛大名古屋B 18―12 愛知教大

名城B 24―12 名工大B

中京 18―13 南山B

名城 23―12 中京B

▽同準々決勝

名城B 21―11 愛大豊橋

中京C 13―6 南山

中京 21―2 名大

名城 23―7 愛大名古屋B

▽同準決勝

名城B 27（14―4、13―14）18 中京C

名城 17（10―5、7―7）12 中京

▽同3位決定戦

中京 20―14 中京C

▽同決勝

名城B 22（8―10、14―5）15 名城

▽女子1回戦（3試合）

中京女B 11（延）10 愛知教大

中京女 12―3 南山

中京B 5―3 愛知教大B

▽同準決勝

中京 11（5―6、6―2）8 中京女B

中京女 10（5―2、5―3）5 中京B

▽同決勝

中京女 12（6―5、6―4）9 中京

滋賀大1部へ ▼東海学生リーグ1・2部入れ替え戦（12月6日、名古屋市体育館）

滋賀大（2部）16（9―9、7―6）15 岐阜大（1部）

柳川、平野につづけ！

実連がジュニア合宿

全日本実連では「第2回（昭和49年度）実業団ジュニア（男子）強化合宿」を昨年11月10日から17日までの8日間、東京練馬・自衛隊体育学校で行なった。

参加したのは全国の実業団で将来を期待される21才以下の21名（GK3、FP18）。富永劭、東一敏両氏をコーチに、そのほか、渡辺慶寿日本協会技術部長、竹野奉昭全日本男子監督、池田鉄哉全日本女子コーチらが招かれ、基礎技術を主体としたトレーニングが指導された。

前回（48年9月）の参加選手のなかからモントリオール候補選手として柳川実(大同製鋼)、平野稔選手（海上自衛隊下総）がリストアップされるなど、早くも〃成果〃が表れているだけに、選手たちは意欲的で、平野選手はモデルプレイヤーとして、今回の合宿にも姿を見せた。

合宿参加選手は次のとおり（数字は身長＝cm）

▽GK 片桐（セントラル自動車176）、大谷（神戸製鋼、176）、牧原元則、本田技研鈴鹿、171）▽FP 北村(174)、守田(167)、中本(183)～以上大同製鋼～、額賀(165)、藤枝(181)、田山(189)～以上自衛隊勝田～、前渕(182)、坂口(168)、新田（175）～以上大崎電気～ 宮本(170)金田(165)～以上自衛隊第3術科校～、高橋(165)、山田(167)～トヨタ車体～、渡辺（ヤントラル自動車169）、越智（日新製鋼呉、180）、須藤（神戸製鋼、186）、矢野（本田技研鈴鹿、169）、竹上（新日鉄名古屋171）。

15日に高体連全国会議 高体連ハンドボール部は定例全国委員会を2日15日午前9時から東京岸記念体育会館で開く。

審判研修会は3月 日本協会では、全国審判中央研修会を3月8、9日の両日、東京・青少年総合センターで開く。

世界選抜軍、ユーゴと「夢の球宴」

★夢の球宴とでもいおうか。現代最高のプレイヤーを集めたIHF・ワールドオールスターズが編成され、ミュンヘンオリンピックのゴールドメダリスト、ユーゴスラビアナショナルと、史上に残る名勝負を演じた。

昨年11月13日、ユーゴ協会25周年記念試合に企画されたもので、会場のリュブリアナ・スポーツホールは、5千（超満員）の観衆で沸きに沸き ユーロビジョン、インタービジョンの両ネットワークで、全ヨーロッパ諸国にテレビ中継された

☆……世界10ケ国から選ばれた16人のスーパースター。コートに姿を現わしただけで観衆は熱狂。お目当ての選手がシュートを射てば口笛が吹かれ、トリッキーなパスが送られればラッパが鳴らされる、といった興奮状態

しかも、ユーゴ側へは、今シーズンから西ドイツのクラブチームに籍をおいているラザレビッチとラブルニッチの〝LL砲〟が加わり、久々に故国のファンの前にその勇姿を現わしたのだから〝愉快指数〟はうなぎのぼり。

☆……試合は一進一退、いくつものヤマ場があって、最後は20—20のドロー。

さすがにスターたるものショウマンシップも心得ているようで、味（あじ）な結末となった。

このチームの指揮をとったのはIHF競技委員長のイオン・クンスト（ルーマニア）氏。

名手ガツをゲームメーカーに多彩な攻撃で、各選手の持ち味を活かすさい配をみせたのは、さすがだった。

☆……こうした催しは、今回が初めてではない。一九六八（昭43）年チェコ協会設立20周年記念試合として、ワールドオールスターズ対チェコナショナル戦（24—21でスターズの勝ち、本誌60号参照）が行われており、史上2度目の〝快挙〟である。

☆……今回、選ばれながら負傷などの理由で、参加しなかった主な選手はガンショウ、ラケンマハーの東ドイツ勢、マキシモフ（ソビエト）、ビルトラン（ルーマニア、昨春の世界選手権得点王）などだった。当初、ルブキング（西ドイツ）も選ばれるのではといわれていたが最終的には招かれなかったようだ。6年前のチェコ協会創立記念試合の時に引きつづき、今回もワールド・スターに選ばれたのはホルバット（ユーゴ）ただ一人。

〝佐藤（本田技研）選にもれる〟

ワールド・オールドスターズはIHF（国際ハンドボール連盟）の競技委員会によって25名の候補選手がリストアップされたが、その中には、佐藤要二選手（本田技研鈴鹿、FP、25才、179cmオリンピック候補）も含まれていた。昨春の世界選手権で個人得点2位になるなどの活躍が買われたものだが、最終選考（10月3日）でもれた

IHFコーチシンポジウム（9月、スイス）に出席した竹野奉昭全日本男子監督は『むこうでは佐藤君の選出は固いといっていたが惜しいことをした。技術的な問題より、経費面で招かれなかったのではないか』といっている。

女子の世界選抜軍 この試合でユーゴに集ったヨーロッパの著名ハンドボール記者は、女子のスターズを次のように机上編成した。

▽GK イストバノビッチ（ユーゴ）、セルスティユク（ソビエト）

▽FP トルティ、ルキッチ、ラベルサ（以上ユーゴ）、ズース、アルギール（以上ルーマニア）リトチェンコ、ツルシーナ（以上ソビエト）、ゲールホフ、クレッツマール（以上東ドイツ）、E・トース（ハンガリー）

ワールドオール・スターズ 20（10—14 / 10—6）20 ユーゴ

【ワールド・オールスターズ】

	氏名	国（身長）
K	ペヌ	（ルーマニア 191）
	アルスラナジッチ	（ユーゴ 189）
	スジムクサク	（ポーランド 193）
F	ガツ	（ルーマニア 177）
	ポポビッチ	（ユーゴ 181）
	ホルバット	（ユーゴ 191）
	シモ	（ハンガリー 194）
	シュミット	（西ドイツ 195）
	ベネス	（チェコ 181）
	フイッシェルストリヨーム	（スウェーデン 180）
	トライダル	（ノルウエー 193）
	ポクラヤク	（ユーゴ 183）
	クレムペル	（ポーランド 192）
	クレピンダル	（チェコ 181）
	アシン	（スペイン 174）

【ユーゴスラビア】

	氏名	身長
K	ゾルコ	（189）
	ニムス	（184）
	ジブコビッチ	
F	ミスコビッチ	（185）
	ブガルスキー	（178）
	パピヤビッチ	（183）
	カラリック	
	セレク	
	ラゼノビッチ	（194）
	プリバニッチ	（186）
	ピトビッチ	
	フアイフリッチ	（180）
	ミルセク	（189）
	フエイズラー	
	ボヨビッチ	
	クリボカピッチ	
	ラブルニッチ	（192）
	ラザレビッチ	（188）

・（ ）内数字は身長（cm）
・ユーゴの7選手は不明

▽審判員J・F・ロディル、P・オブダル（ともにデンマーク）

瀬戸ク（香川）に初の栄冠

各地の記録

第3回四国クラブ選手権は昨年12月15日高知市・追手前高校グランドに徳島を除く3県から6チーム（男子のみ）が参加して開かれた。

3チームづつ2組の予選リーグを行ない、予想どおり瀬戸ク（香川）と新居浜ク（愛媛）が首位となり、両者の間で決勝戦が争われ前半互角の戦況から、瀬戸クが終盤、貴重な勝ちこし点をあげ初優勝を飾った。

新居浜クの2連勝は成らなかった。

▽予選リーグA組

瀬戸ク（香川）20（13―3、7―5）8 中村ク（高知）

松山ク（愛媛）19（9―7、10―6）13 中村ク

瀬戸ク 11（4―2、7―4）6 松山ク

▽同B組

高知ク（高知）31（12―14、19―4）18 土佐高OBク（高知）

新居浜ク（愛媛）27（11―11、16―3）14 土佐高OEク

新居浜ク 15（12―5、3―6）11 高知ク

▽決勝

瀬戸ク 12（5―4、7―7）11 新居浜ク

金沢市役所とあすなろク

▼第10回石川県実業団選手権（11月・石川県体育館）＝男子のみ

▽1回戦（1試合）

自衛隊金沢 22―20 金沢市役所B

▽準決勝

金沢市役所 36―10 自衛隊金沢

小松製作所 24―6 津田駒工業

▽決勝

金沢市役所 28（18―4、10―5）9 小松製作所

▼第4回石川県クラブ選手権（11月・石川県体育館）＝男子のみ

▽準決勝

あすなろク 17―15 七尾ク

県工ク 19―17 小松ク

▽決勝

あすなろク 22（14―10、8―6）16 県工ク

坂出工、三本松振り切る

▼香川県高校新人大会（11月・高松工芸高）

▽男子決勝リーグ

坂出工 8―7 高松東

三本松 15―5 丸亀

高松東 17―12 丸亀

坂出工 8―4 三本松

三本松 16―12 高松東

坂出工 22―8 丸亀

【順位】①坂出工②三本松③高松東④丸亀

▽女子トーナメント1回戦

高松中央 7（延）6 三本松

▽同準決勝

高松一 18―5 高松南

高松中央 10―6 高松

▽同敗者戦

三本松 10―2 高松南

▽同決勝

高松一 5（1―1、4―3）4 高松中央

サンクラブ、早苗ク制す

▼東京都クラブリーグ決勝大会（11月・東京重機体育館）＝男子のみ

▽1回戦（＝準々決勝）

サン・ク 26―16 若木会

セブンスター 19―18 神代ク

早苗ク 14―11 大崎愛球会

ジューキ・ク 16―11 井草OBク

▽準決勝

サン・ク 29―20 セブンスター

早苗ク 12―9 ジューキ・ク

▽決勝

サン・ク 29（16―15、13―9）24 早苗ク

▽最優秀手賞 榊良徳（サン）

名門、古豪1敗で並ぶ

▼第18回愛知クラブ対抗リーグ（11月・名古屋）＝男子のみ

▽1部

愛知教員ク 28―15 港ク

名城ク 23―11 桜丘会

桜丘会 27―17 港ク

愛知教員 16―9 名城ク

名城ク 28―10 東海ク

港ク 10―9 東海ク

愛知教員 19―10 東海ク

桜丘会 26―13 一宮工ク

名城ク 28―9 一宮工ク

愛知教員 19―15 一宮工ク

名城ク 20―15 港ク

港ク 20―11 一宮工ク

東海ク 17―10 一宮工ク

桜丘会 21―15 東海ク

桜丘会 17―15 愛知教員

【順位】①名城ク・愛知教員・桜丘会4勝1敗④港ク3勝2敗⑤東海ク⑥一宮工ク5敗

【2部順位】①大江ク②一宮ク③南山ク④上野ク⑤東山ク⑥愛工ク

【3部順位】①愛教ク②中京ク③松陰ク④名大ク⑤菊井ク⑥佐々本会

【4部順位】①春日井ク②桜丘会B③愛商ク④佐織ク⑤尾北ク

【5部順位】①若宮ク②しなのク③蒼窮ク④桜田ク⑤中川ク

泉球会、延長で宮崎ク破る

▼第11回宮崎県総合選手権（11月・延岡高）

▽男子準決勝

泉球会 33―25 宮崎教員

宮崎ク 18―16 宮崎大

▽同決勝

泉球会 25（2―3、3―1 … 12―10、8―10）24 宮崎ク

▽女子準決勝

西都商高 10―4 都城西高

小林商高 14―6 泉ケ丘高

▽同決勝

小林商高 17（8―0、9―4）4 西都商高

真備、苦戦の末優勝

▼第29回岡山県高校新人大会（11月・津山商）

▽男子準々決勝

津山 9―7 大安寺

倉敷工 15―8 青陵

津山工 24―3 岡山工

津山商 9―8 水島工

▽同準決勝

津山 19―8 倉敷工

津山工 12―5 津山商

▽同決勝

津山工 14（9―6、5―2）8 津山

▽女子準々決勝

真備 21―4 青陵

大安寺 4（延）3 岡山女

操山 12―3 倉敷南

金川 13―8 津山商

▽同準決勝

真備 8―0 大安寺

金川 10―3 操山

▽同決勝

真備 5（0―0、2―1 … 0―1、3―2）4 金川

宇和島南の進出目立つ

▼愛媛県高校新人大会（11月・宇和島）

▽男子準々決勝

松山東 8―6 新居浜東

新田 17―10 今治西
新居浜工 11―10 松山工
宇和島南 41―4 松山南
▽同準決勝
松山東 11―6 新田
宇和島南 12（延）9 新居浜工
▽同決勝
松山東 11（4―5、5―4、……1―1、1―0）10 宇和島南
▽女子準々決勝
松山商 10（延）6 今治南
土居 11―3 東温
新居浜東 8―0 松山西
新居浜商 18―1 大島
▽同準決勝
松山商 8―4 土居
新居浜商 17―1 新居浜東
▽同決勝
新居浜商 16（13―5、3―0）5 松山商

琉球大、OBを押し切る

▼第8回沖縄県総合選手権（12月・豊見城高）
▽男子準々決勝
琉球大 13―7 沖縄国際大
沖縄工高 25―7 小禄高
北山高 14―9 島尻ク
琉球大OB 39―26 教員愛好団
▽同準決勝
琉球大 17―16 沖縄工高
琉球大OE 25―14 北山高
▽同決勝
琉球大 26（15―14、11―8）22 琉大OB
▽女子準々決勝
知念高 14―5 中部商高
小禄OG 18―10 北山高
小禄高 18―1 那覇商高
浦添高 10（延）6 首里高
▽同準決勝
知念高 14―9 小禄OG
小禄高 8―2 浦添高
▽同決勝
小禄高 6（2―1、4―4）5 知念高

女子は市邨学園勝つ

▼愛知県高校新人中央大会（11月・岡崎北高）
▽男子準々決勝
名南工 8―5 旭丘
一宮工 15―14 市工芸高
名古屋市工 15―8 豊橋工
桜台 13―6 東海
▽同準決勝
名南工 17―6 一宮工
名古屋市工 8―7 桜台
▽同3位決定戦
一宮工 16―12 桜台
▽同決勝
名南工 9（5―4、4―1）5 名古屋市工
▽女子準々決勝
岡崎商 6―2 佐屋
岩津 9―0 松蔭
市邨学園 10―2 半田商
西尾 4―1 蒲郡
▽同準決勝
西尾 3―2 岡崎商
市邨学園 6―5 岩津
▽同3位決定戦
岩津 12―3 岡崎商
▽同決勝
市邨学園 12（5―0、7―2）2 西尾

山陽女、決勝で完封勝ち

▼広島県高校新人戦（11月・尾道高）
呉宮原 15（延）13 呉工
盈進 13―8 呉港
広 12―9 呉三津田
修道 12―7 城北
▽同準決勝
呉宮原 16―8 盈進
修道 13―7 広
▽同決勝
修道 13（6―6、7―3）9 呉宮原
▽女子1回戦（2試合）
呉豊栄 4―2 呉宮原
広島一女商 19―0 呉商
▽同準決勝
呉豊栄 3―2 進徳女
山陽女 12―10 広島一女商
▽同決勝
山陽女 14（7―0、7―0）0 呉豊栄

一般は日新製鋼が快勝

▼第10回広島県秋季選手権（12月・修道大体育館）＝男子のみ
▽男子準々決勝
三菱レ大竹 29―8 広島大
日新製鋼 31―9 呉同好会
広島教職員 20―17 日本発条広島
菊翔会 棄権 IHI呉造船
▽同準決勝
日新製鋼 棄権 三菱レ大竹
菊翔会 21―15 広島教職員
▽同決勝
日新製鋼 31（15―5、16―5）10 菊翔会

豊中、大谷巧みな試合ぶり

▼第26回大阪府高校新人大会（11月・阿倍野高校ほか）
▽男子準々決勝
長野 20―11 佐野工
大商 12―5 摂津
鳳 9―7 泉北
豊中 11―10 此花学院
▽同準決勝
大商 14―11 長野
豊中 17―8 鳳
▽同決勝
豊中 9（4―3、5―4）7 大商
▽女子準々決勝
門真 13（延）10 豊中
鶴見商 4―3 春日丘
大谷 7―2 和泉
四天王寺 6―5 箕面
▽同準決勝
鶴見商 4―3 門真
大谷 5―1 四天王寺
▽同決勝
大谷 10（5―1、5―0）1 鶴見商

女子は大激戦、勝負つかず

▼第18回岩手県高校新人大会（11月）
▽男子準々決勝
盛岡一 15―3 盛岡四
盛岡商 8―6 花巻北
生活学園 21―4 岩手
水沢 13―7 一関工
▽同準決勝
盛岡商 4―2 盛岡一
生活学園 10―5 水沢
▽同決勝
盛岡商 9（5―2、4―2）4 生活学園
▽女子準々決勝
岩手女 8―2 花巻農
盛岡二 2―1 平舘
釜石南 7―5 黒沢尻南
花巻南 4―3 花巻北
▽同準決勝
盛岡二 3（分）3 岩手女
7MTコンテストで盛岡二の勝ち
花巻南 10―4 釜石南
▽同決勝
花巻南 2（1―1、1―1、……0―0、0―0、……0―0、0―0）2 盛岡二
引き分け、両校優勝。

三井石油化学が躍進

▼千葉県実業団リーグ（11月）＝男子のみ

▽1部
海自下総 30—15 陸自下志津
三井石油化学 15—11 丸善石油千葉
陸自下志津 不戦勝 第3術科校
三井石油化学 18—17 海自下総
丸善石油千葉 不戦勝 3術科校
三井石油化学 17—8 陸自下志津
海自下総 18—12 丸善石油千葉
三井石油化学 不戦勝 3術科校
陸自下志津 19—14 丸善石油千葉
海自下総 不戦勝 第3術科校

【順位】①三井石油化学4戦全勝②海上自衛隊下総教空群3勝1敗③陸上自衛陸下志津2勝3敗④丸善石油千葉1勝4敗⑤海上自衛隊第3術科校 棄権

【2部順位】①海上自衛隊木更津6対全勝②陸上自衛隊5勝1敗③住友千葉化学4勝2敗④日産石油化学⑤ヤトロン⑥陸上自衛隊松戸⑦海上自衛隊21空群

小松市女、3試合で84得点

▼石川県高校新人大会（11月・小松市体育館）

▽男子準々決勝
松陵工 12—8 小松商
泉丘 15—12 金沢商
小松工 20—5 羽咋
小松 25—7 二水

▽同準決勝
泉丘 22—9 松陵工
小松工 12—7 小松

▽同決勝
小松工 13（6—3、7—6）9 泉丘

▽女子準々決勝
小松市女 33—0 小松商
大谷 9—7 星稜
短大高 12—2 津幡
松任 9—7 金沢商

▽同準決勝
小松市女 25—4 大谷
松任 10—5 短大高

▽同決勝
小松市女 26（13—1、13—1）2 松任

女子で小諸商ゆるがず

▼第7回長野県高校新人大会（11月・上田高）

▽男子準々決勝
小諸商 8—6 佐久
屋代 17—7 美須々ケ丘
坂城 7—6 上田
北農 13—3 臼田

▽同準決勝
屋代 21—12 小諸商
坂城 16—5 北農

▽同決勝
坂城 9（5—3、4—5）8 屋代

▽女子1回戦（1試合）
美須々ケ丘 23—2 城南

▽同準決勝
美須々ケ丘 8—0 佐久
小諸商 25—3 北農

▽同決勝
小諸商 15（9—1、6—2）3 美須々ケ丘

自衛隊勝田順当勝ち

▼第1回茨城県一般男子室内選手権（12月・日立製作所体育館）

▽決勝リーグ
茨城大 16—13 茨城日立
自衛隊勝田 19—9 原研
自衛隊勝田 16—6 茨城大
原研 24—11 茨城日立
原研 15—14 茨城大
自衛隊勝田 23—16 茨城日立

【順位】①自衛隊勝田②原子力研究所③茨城大④茨城日立

四日市工圧倒勝ち

▼第2回三重県高校秋季大会（11月・四日市市体育館）

▽男子準々決勝
津工 19—12 海星
高田 17—6 桑名西
四日市工 16—3 津
四日市 10—9 尾鷲

▽同準決勝
津工 22—9 高田
四日市工 10—3 四日市

▽同決勝
四日市工 24（8—5、16—4）9 津工

▽女子準々決勝
津女 7—0 桔梗ケ丘
上野 10—6 亀山
上野商 9—7 菰野
暁 7—4 四日市

▽同準決勝
津女 8—1 上野
上野商 9—7 暁

▽同決勝
津女 8（3—1、5—3）4 上野商

小倉西、久留米工降す

▼第21回福岡県高校室内選手権（12月・北九州市立総合体育館）

▽男子準々決勝
若松 6—3 香椎
小倉西 12（8—2、4—5）7 久留米工
門司 15—5 筑紫中央
小倉工 23—9 宗像

▽同準々決勝
小倉西 14—4 若松
小倉工 22—10 門司

▽同3位決定戦
若松 13—8 門司

▽同決勝
小倉西 4（3—1、1—0）1 小倉工

▽女子準々決勝
古賀 6—3 福岡女商
福岡女 10—3 明善
東海第五 11—5 嘉穂農
筑紫女学園 6—5 筑紫中央

▽同準決勝
古賀 10—3 福岡女
筑紫女学園 6—2 東海第五

▽同3位決定戦
福岡女 11—9 東海第五

▽同決勝
筑紫女学園 7（1—3、6—3）6 古賀

「各地の記録」への寄稿を歓迎します。市大会以上の公式戦を大会終了後2週間以内にお送り下さい。用紙自由。ただし、原文を短かくする場合があります。

★編集後記

◇……新しい年最初の機関誌をお届けします。遅ればせながら今年もどうぞよろしく。

多くのかたが、今年は「激動の年」「多難な年」と予測されています。その波乱の中へ船出する代議員制度。多大な期待が寄せられます。

◇……間近かに迫った世界女子選手権のアジア予選。日本側の準備は万全ですが、日程その他、この原稿を書いている時（1月25日）に、まだ未確定な要素があります。

競技をはなれて、アジアのハンドボール界を今後どのように運ぶかも、大きなテーマです。

◇……33頁の「明日への提言」本誌史上初の中学生読者からのものです。嬉しいことでした。

原稿の最後に「僕も、機関誌に名前の載るような選手になりたいと思っています」と書いてありました。

◇……編集部の新年の抱負は毎号「40頁」に定着させることです。

そのためには読者が増え～つまり購売料の増収～、読者の寄稿、投稿、通信を増す必要があります。ご協力下さい皆さんの雑誌のために!!（S）

日本ハンドボール協会編
『ハンドボール』
第一二七号
昭和四十年六月七日 第三種郵便物認可
昭和五〇年一月二十五日印刷 昭和五〇年二月一日発行
発行所 日本ハンドボール協会
東京都渋谷区神南一−一−一
電話 大代表(467)三二一一
振替 東京五八三四八番
編集兼発行人 保坂周助
定価二百五十円（年間購読料二千三百円）